

会報

第130号
(1997年1月)



関西ハーモニカ連盟

関西ハーモニカ連盟

会報 第130号

97年1月1日 発行

発行部数 250 毎年4, 7, 10, 1月に発行

関西ハーモニカ連盟

理事長 仲村 眞 545 大阪市阿倍野区三明町2-6-10
電話 06 624-5606

副理事長 上本 洋 631 奈良市富雄北3-21-5-301
兼事務局長 電話 0742 43-7738

副理事長 吉村 則次 591 堺市東浅香山町3-104-5-201
兼編集局長 電話 0722 51-9398 FAXも同じ

その他の主要役員

指導部長 白鳥 達夫 06 728-7951

事業部長 飛田 保雄 0774 41-6568 FAX 0774 43-3789

会計部長 後藤 貞男 0724 41-0552

技術部長 宇佐美 進 0720 57-2077

常任顧問 酒井 涼爾、吉森 正隆、平口 謙二、小林 忠夫

特別顧問 森本 恵夫、齋藤 寿孝、徳永 延生、和谷 泰扶

入会のご案内

入会費 1000円、年会費(1-12月) 5000円

ハーモニカに興味のあるかたなら住居地にかかわらずどなたでも入会できます。
住所、氏名、電話番号次の住所へ送り、6000円を振替口座に振り込みください。

596 岸和田市春木旭町36-17 後藤貞男

電話0724 41-0552

郵便振替口座 00950-6-115527 関西ハーモニカ連盟

年度途中入会の方には、当年度のバックナンバーをお送りします。

1月 JANUARY



あけまして
おめでとう
ございます

関西ハーモニカ連盟

目 次

表紙写真	ガーフィールド・ザ・キャットとハーモニカ	提供	吉村 則次氏	
裏表紙写真	T-シャツ、セントルイスで購入したもの		吉村 則次氏	
年会費請求書(年会費納入のお願い)		会 計 部 長		3
97年度関西ハーモニカ連盟総会招集通知(兼理事会招集通知)				
(1/15徐園)		事 務 局 長		4
新年ご挨拶		理事長	仲村 眞	5
関西ハーモニカコンサート				
関西ハーモニカコンサートを振り返って	実行委員長	飛田 保雄		5
写真集	ハーモニカ祭り実行委員			6
第1回西日本ハーモニカコンテスト				
入賞者一覧	コンテスト実行委員長			9
コンテストをふり返って	コンテスト実行委員長	仲村 眞		10
コンテストを審査して	同 審査委員長	斎藤 壽孝		11
コンテストに優勝して—優勝者の言葉—				
吉村 則次、木谷悦子、山本広幸、ハーモニクス大阪各氏				13
特 集				
なぜ、あなたはハーモニカを吹くのですか、				
ハーモニカ健康法		吉森 正隆		17
ハーモニカで第3の人生もますます充実		吉森 正隆		19
ハーモニカと呼吸法		太田 荏弘		20
ハーモニカが健康法のTVに!		太田 荏弘		23
私のハーモニカ人生		北尾 郁子		24
だからこれからもハーモニカを吹き続けます		吉見 治		25
音楽を演奏したいからハーモニカを吹く		吉村 則次		27
ハーモニカ・カレンダー(行事の実績と今後の予定)		編 集 局		29
1-3月研修会開催のお知らせ		指 導 部		32
小さなオーケストラ、小林忠夫ハーモニカリサイタル(96/9/7)を聴いて				
全日本ハーモニカ連盟理事長	斎藤 壽孝			33
大盛況の小林忠夫リサイタル、賛助出演がまた豪華	吉村 則次			36
ハーモニカでタンゴを	入江 章次			38
71年前のハーモニカ楽譜「砂漠の隊商」	永久 欣示			39
アメリカハーモニカ協会(SPAH)コンベンションに参加して	吉村 則次			41
盛況をきわめた関西ハーモニカポップス定期演奏会	酒井 涼爾			49
原稿募集 20年後の日本のハーモニカ	編 集 局			50
最近買ったハーモニカCD等、隠れた名手がまだまだ	吉村 則次			51
特別顧問徳永延生氏がCD発売	編 集 局			52
特別顧問斎藤壽孝氏が「ハーモニカの本」を発行	編 集 局			53
巨星落つ、アル・フィオレも逝去	編 集 局			53
音楽は算数か?	入江 章次			54
レターボックス—会員からのお便り	編 集 局			55
テレビに現れたハーモニカ	編 集 局			56
四国のかたも入会、新入会者氏名、住所訂正、物故者通知	事 務 局			57
16年前の連盟総会	永久 欣示			58
スティービー・ワンダーが「アエラ」表紙に	編 集 局			59
編集後記	編 集 局 長			60

同封物：総会出欠回答用紙、連盟会員調査表用紙、返送用封筒(切手貼付済み)

関西ハーモニカ連盟 会員 各位

年 会 費 請 求 書

平成9年度（1997年度）年会費納入のお願い

関西ハーモニカ連盟
会 計 部 長

次のとおり当連盟の平成9年度（1月から12月）の年会費をお振り込みください。

年 会 費 5000円

振り込み先 郵便振替口座 00950-6-115527

加入者名 関西ハーモニカ連盟

お近くの郵便局で「払込取扱票」に記入の上お振り込みください。

なお、他の費用と混同しないように、「通信欄」に「9年度年会費」と記入ください。

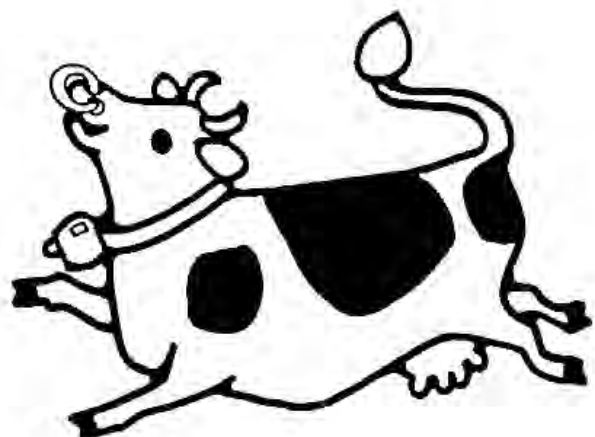
払い込み手数料 60円

振り込み期日 9年1月31日まで

1月15日の連盟年次総会ご出席のかたは、そのとき現金にてお支払いいただいても結構です。

長期間会費の納入のない会員は、会員ご継続の意思がないものとみて、連盟規約第20条に基づき、会員名簿から削除させていただきますので、ご了承ください。

以上



連盟 会員 各位

関西ハーモニカ連盟

平成9年度 総会 招集通知

関西ハーモニカ連盟 理事長 仲村 貞
 担当 事務局長 上本 洋

次のとおり、当連盟平成9年度総会を開催しますから、ご出席ください。

- 1、日 時 平成9年1月15日 祭日 午後3時
 (注) 同日午後1時から及び総会終了直後に**理事会**を開催します。
 理事のかたはご出席ください。
 また午後5時から**懇親会**を開催します。
- 2、場 所 大阪市西区江戸堀1-15-30 北京料理 徐園
 電話 06 448-5263
- 3、議 題
 - 報告事項
 - 事業報告
 - 8年度会計報告
 - 決議事項
 - 規約改正
 - 役員選任
 - 事業計画
 - 9年度予算案
 - その他の決議事項

出欠を同封回答用紙により、1月6日(月曜日)までにご回答ください。

(同封の「会員票」もお送りください。)

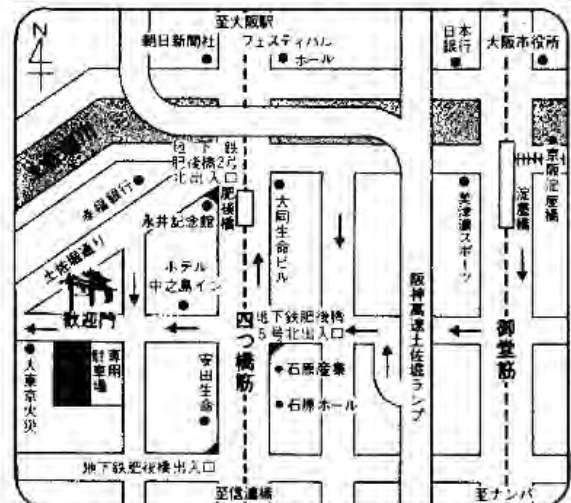
欠席の回答があったもの及び回答がないものは、上記決議を理事長に委任したものと見なします。

総会に引き続き、**懇親会**を次のとおり開催します。同じく回答用紙により、出欠をご回答ください。

場 所 総会と同じ場所
 開催時刻 午後5時
 会 費 6000円

理事のかたは、理事会の出欠も回答用紙によりご回答ください。
 理事会は、一般の会員も自由に傍聴できます。
 おいでください。 以上

門のある店
北京料理 徐 園
 総合結婚式場 **長安殿**
 TEL(06)448-5263~5
 FAX(06)446-6626
 レストラン **JO-EN**
 TEL(06)448-5262
 大阪市西区江戸堀1-15-30
 (地下鉄・肥後橋駅交差点2番北出入口西側)
 駐車場完備 満車のときはお断りすることもあります。ご了承願います。



新年のご挨拶

97年1月元旦

理事長 仲村 眞

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年はハーモニカ新元年（渡来101年）として、初めて念願の西日本ハーモニカコンテストを実施し、また宇治平等院が世界遺産に指定されたことに合わせ、宇治市始め関係各位の絶大なご協力を得て行いましたハーモニカコンサートも大盛況の裡に無事終了。年間に行った研究会も講師の先生方の貴重な知識と経験の披露に熱心な参加者が応える形で、いずれも有意義な会であったと感じます。

昨年から会報の内容が大幅に豊富となりましたが、今後はさらに精選、充実が望まれると思います。皆様のご意見を伺いたいと存じます。

これら担当された顧問、理事の皆様には、並々ならぬ情熱と努力をいただきましたこと、これにご協力くださった会員及び部外関係者の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

本年はハーモニカの普及、発展のために特に力を入れた過去2年間の効果を基盤として、連盟の財政再建と、しばらく途絶えていた他地区との交流、合同演奏会の復活に向けて、さらに充実した運営を行っていきたいと考えます。

本年も皆様の一層のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

以上

関西ハーモニカコンサートを振り返って

ハーモニカコンサート実行委員長 飛田 保雄

去る10月20日、宇治市で開かれた関西ハーモニカ祭りは、大成功のうちに終わりました。

これは、ひとえに関西ハーモニカ連盟あげでの取り組み、ご協力の賜物であります。

会場の地元民の一人として、また当連盟事業部長として、こころから嬉しく、お礼申し上げます。

さて、コンサート当日の様子を振り返りますと、第一部については、出演者200名を超え、関西におけるハーモニカ活動の充実ぶりがしっかりと確かめられました。

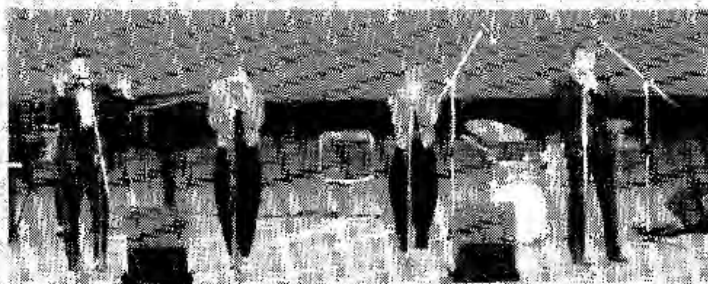
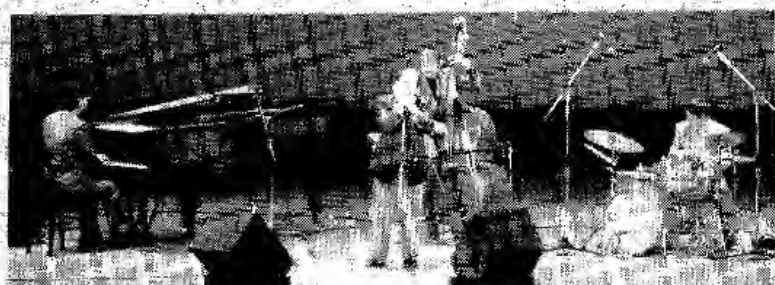
また二部については、1300人収容の会場が満席となり、演奏者と聴衆が一体となった文字どおり感激と興奮のコンサートとなりました。

コンサートの帰路、異口同音にハーモニカの魅力、素晴らしさをたたえておられたのが印象的でした。

今回のコンサートは、関西ハーモニカ連盟だけでなく、ハーモニカの歴史にとっても意義あるものとなったと確信しております。

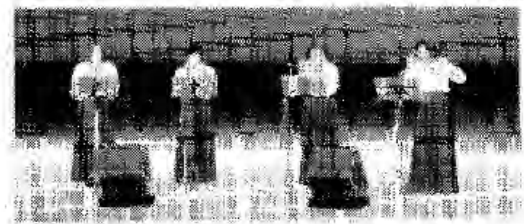
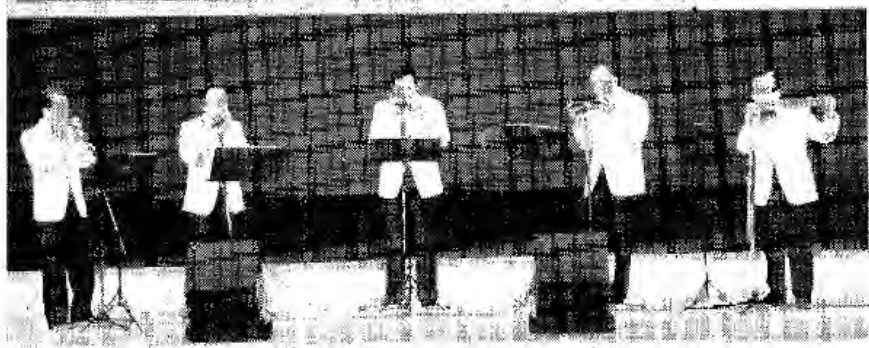
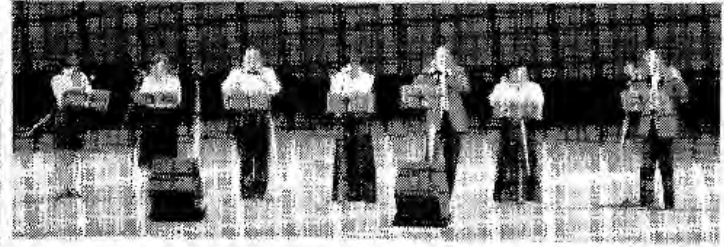
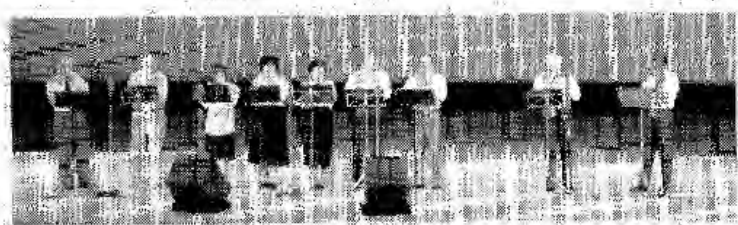
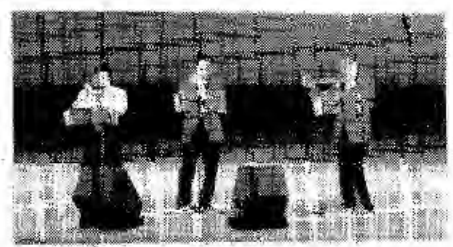
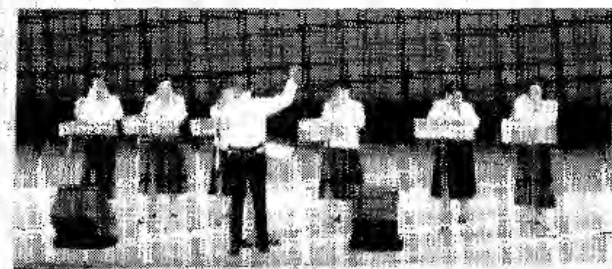
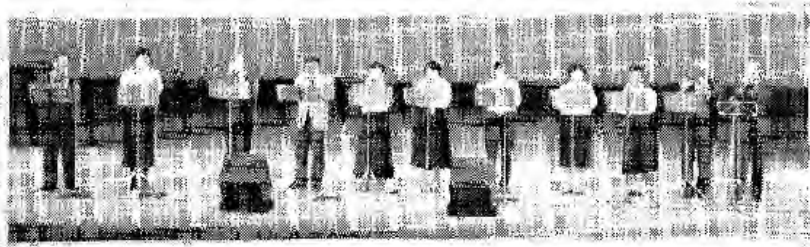
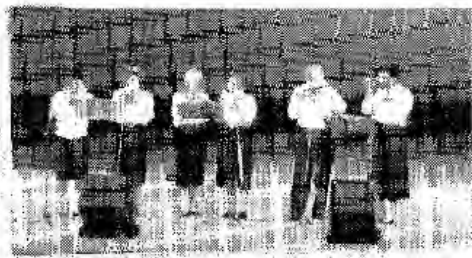
96/10/20 ハーモニカコンサート 第2部ご出演の皆さん

齋藤壽孝氏、小林忠夫氏、吉森正隆氏、森本恵夫氏、クロード・ガーデン氏、徳永延生氏、京都ハーモニカカルテット氏、徳永延生氏とクロード・ガーデン氏

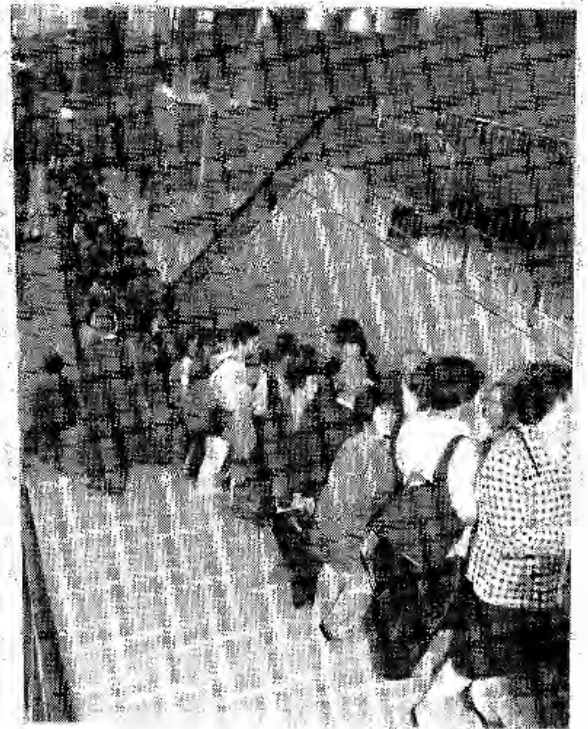
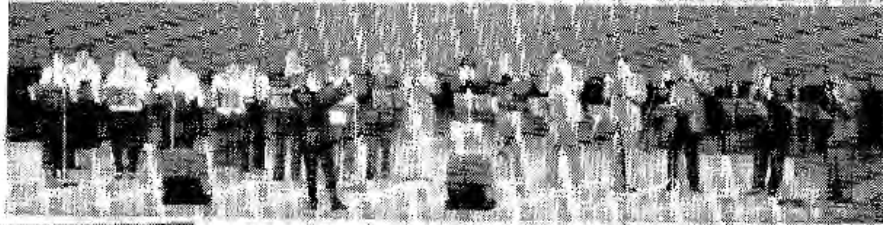


撮影 松川 義明
村田 潤

96 / 10 / 20 ハーモニカコンサート
アンサンブル出演の皆さん



撮影 松川 義明
村田 潤



第1回西日本ハーモニカコンテスト

西日本ハーモニカコンテスト、入賞者一覧

第1回西日本ハーモニカコンテスト 実行委員長 仲村 眞

9月8日、宇治市市民会館で行われました、関西ハーモニカ連盟主催、四国ハーモニカ連盟、九州ハーモニカ連盟、岡山ハーモニカクラブ共催の第1回「西日本ハーモニカコンテスト」の各部門の入賞者は次のとおりでした。前号96/10号の折り込みでお知らせしましたが、再び掲載します。

なお、審査員の講評、入賞者の一言等は別記事をご覧ください。

◎第1部門 クロマチック・ソロ（クラシック部門） 出場者数 8

- I、吉村則次 G. フォーレ シシリアーノ
- II、池口龍法 ゴードン・ヤコブ 五つのハーモニカ組曲より
- III、木下 亮 ハイドン ジブシーロンド
- IV、松川義明 バッハ G線上のアリア
- V、西本豪介 マスネー タイスの瞑想曲
- VI、上田恵子 ランゲ 花の歌

奨励賞、中村範子、上田耕太郎

◎第2部門 クロマチック・ソロ（ジャズ・ポピュラー部門） 出場者数 15

- I、木谷悦子 アメリカ民謡/徳永延生 アメージングレース/水鳥のサンバ
- II、辻本泰樹 デューク・エリントン キャラバン
- III、真田雅史 ルイ・ボンファ サンバ・デ・オルフェ
- IV、辻 晋哉 リムスキー・コルサコフ バンプルビー・ツイスト
- V、松井英夫 ビリー・ジョエル 素顔のまま
- V、石井 淳 エルトン・ジョン ユアースング (注) V位が2人です。

◎第3部門 複音ソロ部門 出場者数 12

- I、山本広幸 柴田 貞 城ヶ島の雨による幻想曲
- II、吹上晴彦 メンデルスゾーン ヴェニスのごンドラの歌
- III、吉見 治 トミー・ライリー パルセンチーノ
- IV、宇佐美進 杉山長谷夫 出船夜想曲
- V、金川 一 成田為三 かなりや
- VI、宮下豊光 田村虎蔵 青葉の笛幻想曲

◎第4部門 アンサンブル部門 出場者数 5

- I、ハーモニクス大阪 モンティ チャールダッシュ
- II、枚方ハーモニカカルテット ブラームス ハンガリアン舞曲No. 5
- III、宇治ハーモニカトリオ ボルカメドレー
- IV、宇治ハーモニカカルテット 杉山長谷夫 夕やけ小やけとねんねのお里
- V、宇治ハーモニカエンジェル フォスター 春風

以上

第1回西日本ハーモニカコンテスト

第1回西日本ハーモニカコンテストを ふり返って

実行委員長 仲村 眞

ハーモニカ新元年（渡来101年）を迎えて、以前より声のあった西日本ハーモニカコンテストの話が俄かに浮上し、本年（1996年）の行事として取り上げられる事になりました。初めての試みということで立場上私（仲村）が実行委員長を担当することになりました。

準備にあたり、私が心がけたのは次の4つでした。

- 1、西日本と決めたからには、出来るだけ多くのハーモニカ愛好者に、出演部門、規定、場所、時期を伝える必要があること、
- 2、可能な限り公正な審査を行うこと
- 3、経済的に収支可能な範囲にすること、
- 4、入賞のレベルを一定以上とすること

実行委員会で決まった4部門では、ブルース部門がありませんが、これは審査員と出演者の両面から今後の問題として見送られ、クロマチック部門でクラシックとジャズ・ポピュラーの2つの部門に別れたのは、奏法が全く異なるという指摘があったからでした。

審査委員については公開した通りですが、審査の極端な片寄りを避ける為に7名の方のうち最高点と最低点を除く5名の方の総計で順位を決めること、また平均点が100点満点のうち60点に満たぬ時は、順位が6位以内でも入賞としない事を打ち合わせました。

審査員が多いほど良いのですが、審査の基準の周知や集計に大変手間がかかります。また費用も多くかかりこの点も問題です。また審査員の先生方は広く音楽的に判断されるいわゆる「音楽家」と、特にハーモニカ音楽についてテクニックや奏法などにも詳しい演奏と指導両方をされた方など、色々な方々で審査される方がよいのか、そのジャンルの専門家で審査する方がよいのか、出演者の曲が各々違うこともあり本当に大変です。見方によっては、一番その方面に詳しい先生お一人で審査する方が、より公平な場合もあるかも知れません。

でも、とにかく試みの第1回は終わりました。今後は2年後という事ですが、次は、いつどこでやるかは全く決まっておりません。次回はハーモニカ界各組織の名簿をより多く収集し、マスコミも含めて参加を呼びかけること、西日本各地の組織の代表で大筋企画を行うことなど、今回のコンテストを基盤にして、出来れば予選を行った後、決勝大会を行う位、多数の参加を期待したいところです。

実行委員長としての力不足をお詫びすると共に、ご協力頂いた関係各位に深謝いたします。



第1回西日本ハーモニカコンテストの
あと、挨拶する 理事長 仲村眞氏



クロマチック・ソロ・ジャズポピュ
ラー部門 優勝の木谷悦子氏

第1回西日本ハーモニカコンテスト

「西日本ハーモニカコンテスト」 を審査して

審査委員長 齋藤 壽孝

95年の《ハーモニカ渡来100年》から勢いを得て、全国的にハーモニカを普及発展していこうとする動きが見られます。音楽とは本来「音」を「楽」しむという言葉どおり、競い合うものではないのかも知れませんが、より高いもの、より良いものを求め、競い合うのも人の性なのでしょう。

これまでに我国が経験したハーモニカの第1期黄金時代（大正-昭和初期）、第2期黄金時代（戦後の昭和20年-30年ころ）でも同様の動きが見られます。第3期黄金時代（昭和52年-）といわれる今日、全日本ハーモニカ連盟やF1Hジャパンなど全国組織が行った全国規模のコンテストはありましたが、今回のような地域を限定して地域団体が主導して開くコンテストはありませんでした。そうした意味では、第3期黄金時代は、これからが本番、と言えるかも知れません。

「西日本ハーモニカコンテスト」と地域を関が原以西に限定しても、コンテストであるからには一定の水準は保つべきであり、全国的にも国際的にも適用する基準をもつべきだと私は考えます。審査委員長として私が示した審査基準は音楽性40点、技術40点、印象20点の計100点で採点し、最高点と最低点をカットして残りの合計点を比べて順位を決めようというものでしたが、例えエントリーが小人数であっても、規定以上の点数を確保できない場合は、順位を満たしても入賞とは看なさないとすることが、実行委員会で承認され付け加えられました。

ジャンルは第1部門クロマチック・ソロ（クラシック）、第2部門クロマチック・ソロ（ジャズ・ポピュラー）、第3部門複音ソロ、第4部門アンサンブルの計4部門で、いずれもジュニア部門は設けず、代わりに奨励賞を設けることになりました。

入賞は6位までとし、1位から3位までには盾と賞状、それ以下は賞状のみとすることが決まりました。これとは別に参加者全員に特製の記念メダルが贈られることになりましたが、これが実に素晴らしい出来のものでした。

当日の参加者はソロ・クロマチック（クラシック）が8名、同ジャズ・ポピュラー部門が14名、複音ソロ部門13名、アンサンブル部門5団体でした。

予想に反して複音部門の参加者が少なく、クロマチック・ジャズ・ポピュラー部門が多かったのは、やはり徳永延生さんの地元だからでしょうか。演奏水準もこの部門が断然高く、F1Hジャパン・コンテストの決勝ライブより優れていたように思いました。若い人の参加者が多いこの部門は、東京で全国規模のコンテストをやっても、交通費がネックとなって参加したくとも出来ないのではないのでしょうか。そうした意味では地域ごとの展開には意義があると思います。

優勝された木谷悦子さんの「アメイジング・グレース」と「水鳥のサンバ」は、ノリが良くスリリングなアドリブがダントツでした。

ソロ・クロマチック・クラシック部門で優勝された吉村則次さんは、作戦勝ちだったと思いました。「シシリアーノ」という曲は難度が高いという曲ではありませんで

第1回西日本ハーモニカコンテスト

したが音が美しく、よく歌っている点で傑出していました。

複音ソロ部門は、山本広幸さんが、「城が島の雨による幻想曲」を安定したテクニックと歌心のあるソルフェージュで聴かせて優勝。この部門は吹上晴彦さんの「ヴェニス Gondola の歌」、吉見治さんの「バルセンチノ」、宇佐美進さんの「出船夜想曲」などいずれも甲乙のつけ難い秀演がありました。できれば、もっと多くの方々の参加がほしいと思いました。

アンサンブルは、5組しか参加がないため、やはり淋しい感じがしました。しかも、そのうちの3組は地元宇治からの参加でした。この分野は底辺が広いので、呼びかけ方次第でもっと参加者が増えるのではないのでしょうか。

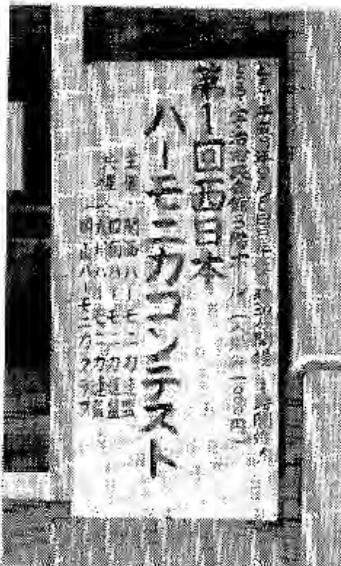
デュエットや2声部ぐらいの大勢のアンサンブル部門を作って、前もって呼びかけてみたらどうでしょうか。トリオやクワルテットはなかなか全員の練習時間を合わせるのが大変なものです。その点、デュエットは二人だけですし、大勢のアンサンブルなら都合の悪い人が何人かいてもそれほど問題はないと思うからです。

今回優勝の「ハーモニクス大阪」の「チャールダッシュ」と第2位になった「枚方ハーモニカ・カルテット」の「ハンガリア舞曲第五番」は、いずれ劣らぬ力演でした。それもその筈、「枚方ハーモニカ・カルテット」は「ハーモニクス大阪」（5人編成）から一人抜けただけだったのです。

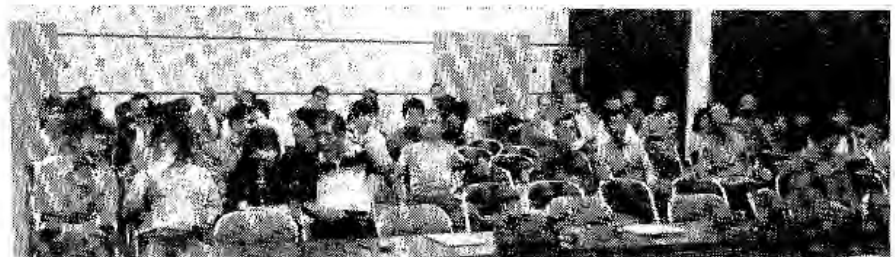
地元の皆さんも健闘され「宇治ハーモニカ・トリオ」の「ボルカ・メドレー」が堂々3位に入賞されました。これから大いに期待したいグループです。

このイベントを機に、このコンテストが更に充実し発展することを期待します。そして、西日本があるのなら、東日本もあっておかしくないでしょう。地域から全国規模へ、そして世界へとつなげていきたいものです。

実行委員の皆さん本当にご苦労様でした。



西日本コンテスト審査員の面々 左から堀部隆次氏、藤本延一氏、斎藤壽孝氏（委員長）、徳永延生氏、吉森正隆氏、小林忠夫氏、白鳥達夫氏



第1回西日本ハーモニカコンテスト

西日本ハーモニカコンテスト

優勝者の言葉

(演奏の順序に従い掲載)

クロマチック・ソロ(クラシック)部門 優勝
吉村 則次

「西日本第1回」という意義のあるコンテストに入賞させていただき、これ以上の光栄はありません。

しかしこれは、すべての音楽のコンクールについても言えることでありますが、私は単に「たまたま、そのコンテストに応募した人の中で1位」だったのであって、到底「絶対に西日本」などと言えるものではありません。(せっかく入賞させてもらったのに、コンテストの権威を落とすような発言で恐縮ですが。)

「オリンピック100mで優勝」とは全く意味が違うものであります。非常に多くの優秀な演奏者が世間にはおられますし、東京でのコンテスト、世界的なコンテストを見ても、レベルがはるかに高く、私など足元にも寄れるものではありません。

したがって、この入賞により鼻を高くすることなく、これを喜びとし、精神的な支えとし、また励みにして、今後今まで以上に努力し、向上を図りたいと思います。

長年この愛すべき楽器に親しみ、努力して来たことを喜んでおります。

この場を借りて、愛する「64スーパー・クロマチック・ハーモニカ」に対し、及び今までにいろいろご指導をいただいている徳永延生先生、チェン・パー・ファン先生、森本恵夫先生、ピート・ピーダスン氏、崎元譲先生、吉森正隆氏、酒井涼爾氏、長いことお世話になった関西ハーモニカポップスのかたがた、その他名前は挙げるときりがありませんが、私を助けてくれ、ハーモニカをやめようと思ったことをとどめさせてくれた、多くのかたがたに対し、感謝したいと思います。

また、耳障りな音に我慢し、私の健康に気を使い、尻をたたいてくれた家族に対しても、特に感謝したいと思います。

今後、更に練習を重ね向上を図り、更に上位のコンテストに入賞することが、これら多くのお世話になったかたに対する報いになると思います。

今後も「いい先生に付いて指導を受けること」を続け、「練習、練習、練習、練習、・・・」を重ねて行きたいと思います。

また、自分の腕を更に磨くだけでなく、従来にも増して愛すべきハーモニカの拡大発展、ハーモニカの喜びの拡大に努めたいと思っております。

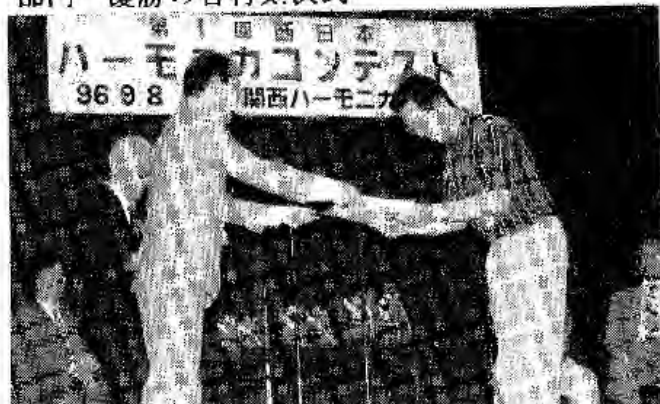
第1回西日本 ハーモニカコンテスト

96.9.8 主催 関西ハーモニカ連盟



以上

クロマチック・ソロ・クラシック
部門 優勝の吉村則次氏



第1回西日本ハーモニカコンテスト

クロマチック・ソロ

(ジャズ・ポピュラー) 部門 優勝

木谷 悦子

関西ハーモニカ連盟の皆様、はじめまして木谷悦子です。

私がハーモニカを始めたのは今から3年前。偶然に立ち寄った梅田の楽器店に飾ってあった『クロマチックハーモニカ』に目を奪われ、なぜかとても興味を持ったのです。ラッキーな事にそこで徳永先生が教室を開いておられたので、早速レッスンを見学させていただきました。その時、先生が吹かれたハーモニカの演奏を聴いて、私が今まで想像していたハーモニカという楽器に対する観念を見事に変えられたのでした。その小さな楽器から奏でられる、語りかけるような、甘えているような優しい音色に心奪われた私はスグに徳永教室に入りました。

しかし、やってみるとレバー操作が思いのほか難しく、始めてから半年ぐらいでギブアップしかけたのです(先生も永くは続かないだろうと思っていたそうです)。ちょうどその時に教室の発表会があり、イヤイヤ出たのですが、そこで他の生徒さんの素晴らしい演奏を聴いてショックを受けました。それまでろくに練習もしないで中途半端にやめようとしていた自分が恥ずかしくなり、その日から少しずつでもいいから毎日吹くようにしよう!と心に決め、今日に至っています。

あれから3年。色々な事があり、1年前から友達とバンドを組んでライブ活動をしています。ハーモニカを通じて音楽の和が広がって、とても刺激的で楽しい毎日を過ごしていますが、反面、やればやるほどその奥の深さを感じ、「自分はまだまだ」ということを思い知らされています。

この度西日本ハーモニカコンサートジャズポピュラー部門で1位をいただいてとても光栄に思っています。今まで急ぎ足でここまで来たという感じでしたが、これからはじっくり楽しみながら、本当のジャズプレイができるよう日々研鑽に励むつもりです。ハーモニカ界では新人ですので、これからも皆様よろしくお願い致します。



高槻市ロビーコンサートで吹く
木谷 悦子 氏

第1回西日本ハーモニカコンテスト

複音ハーモニカ部門 優勝
山本 広幸

私は、四国の高知県高岡郡越智町という人口約8千人の川舎町から2泊3日の予定で出向きました。コンサート等には何度か出場した事は有りますが、コンテストは始めてです。

コンテストに出場のきっかけは、5月26日に高松で四国ハーモニカコンサートが有りまして、私もお案内を頂き、早春賦と四季の唄童謡メドレーの2曲を演奏しました。

皆様の演奏を聞きながら楽しんでいました。プログラムの進行に伴い、大阪から来場されました仲村様の演奏が始まりました。素晴らしい演奏で、お上手だなあと思いつつ、時の経つのを忘れていましたが、やがて演奏も終わり記念写真を撮る為、舞台の方に行きかけたとき、仲村様が近寄って来られまして、9月8日、京都の宇治市で西日本ハーモニカコンテストが有るので出場していただけないでしょうか？とのお話でしたが、そのときはコンテストなど思いもよらない事なので、一応お断りしていました。ところが数日経ってから再度お誘いのお便りを頂き、出場する事にしました。

さて、出場となると曲目は何にしようか？。少しはレパートリーは有りますが、コンテストの曲となれば選曲はいろいろ迷いがあります。

そこで思い出したのが、佐秀会の会報の中で、プロの森本先生が書かれていた事は、コンテストで演奏する曲は、名曲も良いが、それよりも「ハッター」のきく曲が良いとのことでした。

選曲に大変困りまして、高松の加藤先生にアドバイス頂きたくTBSしましたところ、一言で、「城ヶ島の雨」などが良いでしょう、、、そこで私も迷わず決めまして、本番に備えましたが、不安で一杯でした。

以上のような心の葛藤が、岡らずも優勝という栄誉を戴きまして、感激の極みです。

最後になりましたが、この栄誉有る賞を戴きましたのも、先輩方の名演奏を模範とさせて頂き、そして助言をいただきました事に、紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。私の感想文とさせていただきます。



西日本ハーモニカコンテストは、写真、録音いずれも禁止されましたので、コンテストで演奏中の写真及び録音はありません。



複音ハーモニカ・ソロ部門
優勝の山本広幸氏

第1回西日本ハーモニカコンテスト

アンサンブル部門優勝

ハーモニクス大阪 宇佐美 進

「第1回目のコンテストであるから、何としても成功させなくてはならない」との思いで参加を決定した。

昨年、横浜で開催された国際ハーモニカフェスティバルでのコンテスト参加は、選曲で失敗したので、今回は二の舞を踏まないように曲を選んだ。

①テンポに変化があり、②演奏が簡単ではない曲、ということで「チャールダッシュ」に決め、編曲は小林忠夫先生にお願いした。

練習期間は、6-8月の3カ月あったものの、その間に、①三井アーバンホテルでの演奏(5/26)、②地元公民館文化祭での演奏、(6/9)、③アンデパンダンハーモニカコンサート出演(6/16)、④老人ホーム慰問(6/29)、⑤地元小学校での音楽鑑賞会(7/6)、⑥新阪急ホテルでの演奏(8/25)と、次から次へと演奏会出演があり、その練習にも随分時間を要した為、コンテスト参加曲の練習は不十分極まりなかった。

自信の無いまま当日を迎えた。抽選の結果、3番目の演奏となったことは救いであった。日頃の演奏とはほぼ変わらない“まずまずの演奏”ができた。昨年の横浜の経験が多少役立ったようにも思えた。

結果は、因らずも第1位の栄に浴したが、果して1位の実力なのか?疑問である。

今回のコンテストは、特にアンサンブル部門の参加グループが少なかった。また関西以外の地域からの参加が皆無であったことは、大変淋しかった。もっともっと積極的に参加して欲しかった。

次に、5組の参加で全組入賞というのはいかかなものか。西日本(関西)のレベルの低さを物語っているようにも思える。

最後の審査員の先生方の講評も、アンサンブル部門については、アンサンブルの一般的なお話に止まり、講評(理由を挙げ、また、筋道を説いて批評する)が全く無かったことは大変残念であった。「アンサンブル部門は取るに足りなかった」ともとれる。今後のアンサンブルのレベルアップの為にも酷評が欲しかった。

いずれにせよ、我がハーモニクス大阪は、西日本第1位の名に恥じないよう、今後大いに研鑽を積む所存ですので、皆様のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次回(平成10年、第2回)はもっともっと多くが参加して戴くよう皆様のご協力をお願い申し上げます。



若い入賞者
宇治ハーモニカエンジェル



アンサンブル部門 優勝のハーモニクス大阪代表者 宇佐美 進氏

なぜハーモニカを吹くか、ハーモニカと健康

ハーモニカ健康法

常任顧問 吉森 正隆

ハーモニカという楽器は、吹く、吸う、のある唯一の楽器です。

勿論、古代の楽器で笙という楽器は、吸っても鳴りますが、これは例外です。ハーモニカは、金属のリードを震わせて音を出す楽器で、吹く音はプレートの内側にリードがついており、吸う音は、プレートの外側にリードがついております。

リードのついている穴から送られた、吐く息、吸う息によって、リードが振動して、音を発するのです。吹く息で音が出ると、リードの先端は、プレートの外へ出て振動します。また吸う息はでは、リードは、プレートの中に出て振動します。

だから、極端に強く吹いたり、吸ったりすると、復元作用に妨げが生じ、音に狂いが出たり、穴づまりが起こる原因になります。

ハーモニカの演奏法は、深呼吸と腹式呼吸であります。

肺呼吸のすみずみまで酸素を送り込むためには、胸部だけの深呼吸の他に腹部をふくらました腹式呼吸が必要です。頭脳を始め各内臓の細胞は、酸素の補給によって活動しており、平常以上の呼吸は更にその機能を強化する。

平常の呼吸量は、約500ccで、腹式呼吸では約3000ccと言われております。

一生、ハーモニカを吹き続ける事が、自然に健康に繋がって行きます。

腹部を普通に保ち、腹部筋肉に力を入れて、急速に膨らませると、もう出ないと思っていた息が出ます。また急速に引っ込めると、もう吸えないと思っていた息が吸い込めます。自然に横隔膜が上下します。これが腹式呼吸です。女性の方は、胸式呼吸が多いので、意識しながら、呼吸法を変えて行く努力をしてください。

強い音や強いアクセントに、この呼吸法を使います。胸部呼吸では、喉の奥の肉声音がウッ、ウッ、と入って聞き苦しくなります。

正しい呼吸法になっていると、意識しなくても自然に腹式呼吸になってきます。

老いも若きも、大いにハーモニカを吹いて、健康になりましょう。

ハーモニカの奏法は、深呼吸と腹式呼吸の連続で、頭脳を始め、各内臓は、酸素の補給により活動しており、平常以上の呼吸は更に機能を強化します。

ハーモニカの奏法は、深呼吸と腹式呼吸

ストレスも疲労も吹き飛び、いつも爽快です。吹いて、吸って、内臓強化の健康法になります。何時でも、何処でも、手軽に出来ます。楽しみながら、効果的な深呼吸や腹式呼吸が出来ます。ストレスの吹き飛ばしがあります。

ハーモニカは、ガムシヤラに大きく息を吹き込むのではなく、正確に音の吹き口に確実につけ、吹いたり吸ったりするので、これに、強弱をつけ、綺麗な音を出すものですから、平常呼吸法で、無理をしない事が大切です。ただし吹く音が続く場合は、予め多く吸っておかなければなりませんし、吸う音が続く場合は、予め多く吐いておいて、吸う音の連続に備えなければなりません。このような場合に腹式呼吸が必要で

す。

またハーモニカは、呼吸を通じて、肺機能を高めますので、喘息の治療法に効果があります。私も中学校の時まで、寒気に触れるとよく喘息の発作が出ておりましたが、何時の間にか治ってしまいました。

ハーモニカは小さな楽器ですが、楽譜が読めるようになると、世界中の音楽に親しめます。楽譜といっても、数字譜ですから簡単で、1 2 3 4 5 6 7 | のドレミファソラシドの7つの音が読めれば良いので、専門的には、移動ド法と言いますが、至極簡単です。

健康に良くて、世界の名曲を知り得て、こんな良いことは有りませんし、毎日、深呼吸、腹式呼吸を日課にする事は、難しくても、ハーモニカを一日、一寸吹くだけで、健康は貴方のものです。

さあ、皆でハーモニカを吹きましょう。

新聞 寄稿

1996年(平成8年)10月20日(日曜日)



こたまする調べ

主編 人見 美枝子 71
(宇都宮市)

私の住む街は近くに日光、那須をひかき、緑に恵まれたところ。時々、健康維持をかねて山に出かける。そんな時、夫は必ずハーモニカを持参する。武士が刀をさすように、ベルトにはさみ、やおら取り出しては吹いている。

えないが、疲れているときなどハーモニカに合わせて歩いていると、いつの間にか目的地についてしまう。クマよけの鈴の代わりにもなっている。現在まで続いているのは、相性が良かったから。娘は勉強好きではなかったが、大学の芸一能入試でハーモニカ演奏が高齢者の在宅ヘルパーとして活動していた、お年寄りと一緒に歌ったりハーモニカを吹いたり、私の一芸に在り至っているの、趣味など持つ余裕はなかったよ

二カ講師と演奏活動をして

お年寄りに一曲

ホームヘルパー

村尾 逸子 48
(東京都大田区)

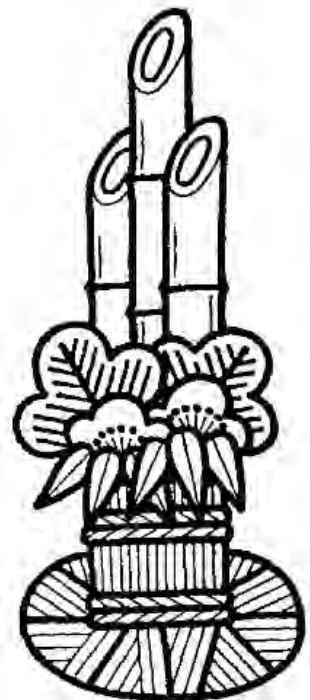
うだが、今ではハーモニカで余生を楽しんでいる。

過ぎ、現在はハーモニカ発祥地とされるドイツの都市に留学している。

私の方は、演奏技術を磨くより、サークル仲間と過ごす時間が充実していて、

隠し芸

—— 脱税企業 (東京・笹之助)



トリヴェール和泉

9 VOL.

リベール
LOVELY HUMAN COMMUNICATION

ハーモニカで第3の人生もますます充実

正隆さん

1991年ハーモニカ世界チャンピオン
よしもりまさたか
吉森正隆さん



哀愁の音色に魅せられて



トリヴェールでの演奏。左端が吉森さん

現。その後ほろちものときから慣れ親しみ、童年の頃からセミアプロの演奏家として鳴らしたハーモニカ一筋に生きまうと思えました。

大阪市内から和泉市に移り住んで8年になります。「親子が声を掛けてくれたので引越してきました」。和泉市内ではクリスマスコンサートにも年連続出演、今年に入るとすでに和泉市民文化ホール、桜丘会館、久保野ホールなどで演奏しています。

持っているハーモニカは「ヨロヨ本ぐらいかな」。種類も多く、演奏する曲によって使い分けます。「本だけでなく3本のハーモニカを同時に、お

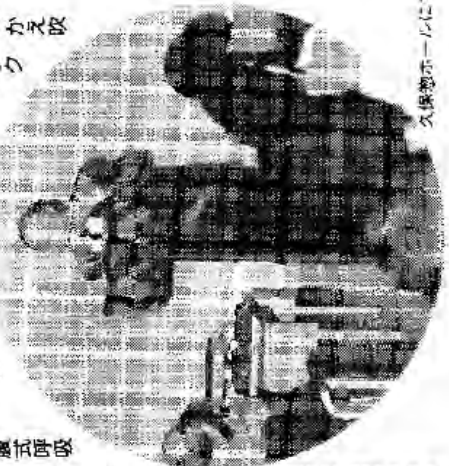
らにちろがえ、ひろかえ吹くことも。華やかなリズムと感性で、哀愁を帯びた美しい音色を作り出し、吉森さんが奏するとき、かわい麗麗と繊細のクラシック音楽にかわっていきます。

「ハーモニカはね、腹式呼吸だから健康にいいんですよ」と、演奏が若さを保つ秘訣にもなっているようです。

国内だけでなく、海外にも演奏に意気込みと飛び回り、主なものでも、今年10月20日、手治市のビッグコンサートや11月

全て優勝の栄冠を勝ち取った吉森正隆さんは、関西ハーモニカボウフスのメインパーソナリティ、コンサート、リサイタル、コンテスト、審査員と超多忙な毎日を送っているそうです。

「人生の放送」というのが得意で、毎社マンスとして20年力を注ぎ、仕事は印象的でもっとはり



久保野ホールにて

5日の関西ハーモニカボウフス第1回定期演奏会などのスケジュールが決まっています。「わたしの演奏を、票を流して聞いてくださる方もいる。ハーモニカで少しは社会に貢献できればいいなと思っています」

★ ハーモニカと呼吸法

太田 荇弘

1 呼吸法とは

ハーモニカは呼吸法そのものである。吐いたり吸ったり、呼吸と同じ動作を繰り返し演奏する。しかしハーモニカを吹くというのがハーモニカを吸うとは言わない。一般的な楽器で息を吸って音を出すものはハーモニカだけである。中国の古い楽器「シエン」や良く似た雅楽で使われている「笙」(ショウ)が吹き吸いの両方で音を出すので、ハーモニカの先祖と考えられている。

呼吸は普段、私達は無意識で行っている。呼吸が停止することは死を意味するが呼吸が重要だとは通常考えていない。喘息や咳、タンで苦しむ時や潜水とか息苦しい状態の時などを除いて自然に楽に呼吸ができる有り難さも忘れていない。しかし生きていくうえで一番大事なのが呼吸である。

呼吸法と法がつくと、無意識で行っている呼吸をその目的に従って意識的に行うことを意味する。呼吸法と言われるものは精神的統一など瞑想も含んだ健康法や運動や楽器演奏も入れた諸動作の手段として語られることが多い。音楽で考えると声楽と管楽器が呼吸法と深い関係がある。声楽も管楽器も息を吐くときに音声を出すので、息を吸うことは、健康法と同じく重要ではない。吐き切れれば自然と瞬時に息を吸えるからである。ハーモニカは吸うときにも音を出さねばならないので、他の管楽器以上に呼吸や息つきが重要である。

呼吸法は大きく分けると3種類ある。胸式呼吸と腹式呼吸と丹田呼吸である。ハーモニカの演奏は、特別な呼吸器系の疾病や空気が希薄な高山で吹くことを除いては健康に大きく寄与できると考えられます。ハーモニカの演奏は健康法でもあると思います。私達はオギャアと生まれたときは腹式呼吸をしているのですが、成長すると胸式呼吸になるようです。赤ちゃんは胸郭がまだ発達していないのでお腹(か)を膨らませ息を吸い、凹ませて息を吐いています。成長するにつれ胸で呼吸をするようです。その端的な例が深呼吸です。体操の後にする深呼吸は胸を広げる動作です。このことから腹式呼吸と胸式呼吸の違いは分かると思います。腹式呼吸は息を吐くときにお腹(か)を凹ませます。吐き終われば苦しいので自然と息を吸いお腹は膨らみます。男性は腹式呼吸が直ぐできるのですか、女性は腹式呼吸が何故か難しいようです。私の推測では、妊娠や出産と関係あるのではないかと考えています。

腹式と胸式呼吸の違いは分かり易いのですか、丹田式呼吸法は一寸分かり難い呼吸法です。腹式呼吸の延長線上にある呼吸法と考えて良いと思います。胸式呼吸とは全く違います。胸郭の下、水落ちと言われる部分から臍(へそ)の下、特にへその下部を「丹田」というが、そこを使う呼吸法です。呼吸の呼のとき、即ち息を吐くときお腹を凹ませるのでなく、その丹田の部分を加圧、腹圧をかけるのです。息を吐くとき、丹田の部分に力を入れて、そこを収縮するのです。(このとき肛門も引き締まる感じで、呼吸法としては吐くとき水落ちを前に折るような動作もあります。)

先日、和谷さんのハーモニカ入門のビデオを見せて貰いましたが最初に腹式呼吸のレッスンがあり、流石というおもいと我が意を得たりでした。ハーモニカの入門書や教則本の類に口の形やブレス・コントロールということは多少触れてあるが呼吸法の腹式呼吸には殆ど触れられていないことが不満でした。

2 ハーモニカは健康法

呼吸を健康のためのテクニックとして考えたのは古くはお釈迦さまのようですが、様々な呼吸法があり、それは腹式ないし丹田呼吸法と呼ばれるモノです。ヨガでも呼吸法は重要な位置をを占めています。呼吸法が何故、健康に良いか考えてみますと、物理的に、化学的に、更に精神的にも良いのです。物理的には、呼吸筋、特に横隔膜を意識的に力強く動かすことにより肝臓や腎臓、心臓などの内臓を強化でき運動療法と同じ効果を簡単に達成できるしジョギングなどのような危険性もない。

つぎの化学的効果ですが、人間もエネルギーを食べ物から取りますがその後始末が問題です。健康を損なったり老化や成人病の原因は、老廃物を完全に体外へ排出できなかつたり活性酸素により組織が正常でなくなるからです。老廃物は個体としての便や液体としての尿、気体としての息などから排泄されます。特にガス交換と言うのでしょうか新鮮な空気を取り込み、汚染され毒素のある気体は早く体外に出すことが血液を綺麗に保ちます。呼吸法は個体、液体、気体の老廃物を早く排出することに役立ちます。これが化学的効果です。精神的な効果は呼吸を、特に呼吸の吐く息を長く行うことにより心理的に精神が安定し心地よい気持ちとなりストレス解消、脳波がα波になる、身体によいホルモン等が分泌されるなどの相乗効果も期待できます。

呼吸法による健康法はこのように良いこと尽くめなのですが、ハーモニカの演奏をこれらのことをベースに行えば、正にハーモニカは健康法の鬼に金棒となるのではないのでしょうか。さらに音楽療法という分野も確立されていますが自らの息吹、吸で妙なる自分にセラピーな音楽を奏でられるハーモニカは最高です。またカラオケによる健康法というのもありますが、合奏、アンサンブルによる調和、一体感と胆（肝）から声を出す快感、これもハーモニカの方が良いと思いませんか。

3 ハーモニカは丹田呼吸で

ハーモニカ演奏のテクニックと呼吸法の関連ですが、私はハーモニカを始めて2年余の初心者ですから、このようなことを語る資格も演奏技術もありませんが、もともと健康法の1つとなるのではというおもいでハーモニカをやりだしたことで以前から呼吸法には興味をもっていましたので今、感じていることを書いてみます。

ズバリ！、ハーモニカは丹田呼吸ではないかと思っています。数少ない経験ですが、最初は胸式呼吸に近い吹き方だったのではないかと思っています。口の形の問題もありますが、音が汚く伸ばせず不揃い、吸い音弱い、低音部、高音部の端の音がでない状態（リズムも駄目でしたが）でした。そればかりか口先で強く吹くためか中、高音部のどれかの音が出なくなったり、音が下がったりしました。大半はリードに亀裂が入ったようで修理を依頼し1カ月も経たないのに又他の音が下がってしまうことが度々ありました。（ホーナーのクロマチックCX-12、270を主に使用していますが新品購入価格より修理代の合計の方が高くなっています）

どれかの音が突然狂いだすとハーモニカを吹く意欲がなくなります。私の吹き方に欠陥があるのか、ハーモニカはこんなものなのか随分悩みましたが口先でなく腹で吹けば良いのではないか、その方が音も綺麗だと思いましたが腹式呼吸との関連はすっかりしませんでした。吹くときは腹を凹ますことを意識して吹いてみましたが

旨くいきませんでした。

そのうちに下腹に力を入れながら吐いたり吸ったりして吹くと旨くいきそうだし、横隔膜の振動によるビブラートも多少かかりそうなので、今は徳永先生の唇を尖らすように動かすベント的な方法も合わせ、下腹に力をいれる吹き方をしています。

これはまさしく丹田呼吸法によるハーモニカの吹き方ではないかと独りよがりですが、こんなやりかたで吹いています。（音階練習みたいなものばかりやって課題曲？が進みません！？）

なお丹田とは、いわゆる臍下丹田という東洋医学では気が集中する臍のしたで、その人の親指を除いた手の平の巾位の臍のしたあたりを云い、下丹田ともいいます。中丹田は水落ちの部分で上丹田は額の辺りをさすようです。丹は硫黄と水銀からできた赤土で不老長寿の薬とされていたようです。

丹田呼吸法につきましては私もマスターしているわけではないのですがハーモニカを吹かないときも、下腹に力をいれて、口を多少尖らせて「フー・・・」と息をできるだけ長く吐いて（吹き出して）います。時にはお腹を動かしながら急激に吐き吸いを繰り返すようなこともやっています。これは何処でも又短時間でやれますが、背筋を伸ばし、できるだけ長く吐くようにしますが、けっして肩や頸に力が入らないように注意して、下腹に力を入れることです。

初めての人は息を吐くとき腹を凹ます腹式呼吸を練習し、次に吐くときに息を吸って膨らんだ腹を凹まさずに下腹に力を入れて息を長く吐く丹田呼吸へ移れば良いと思います。

ハーモニカも呼吸法も本当に始めたばかりの初心者が少し生意気なことを書いてしまいました。何かの参考になり、先輩諸氏より演奏テクニクや練習方法、体験談などをご教示戴ける契機になれば幸甚です。

氏 名 太 田 菫 弘



関西ハーモニカポップス練習風景

なぜハーモニカを吹くか、ハーモニカと健康

ハーモニカが健康法のTVに！

太田 祥弘

呼吸の仕方でも若返る。年齢とともに呼吸機能も衰える。その予防には、横隔膜を鍛え、呼吸筋を強化することだが、それには、ハーモニカの演奏が一番良いというテレビがありました。8年の6月4日、YTVでミノモンタが司会するお昼の《おもいきりテレビ》・・・「ゆっくり息を吐いて10年若返り」という番組。

この番組に招かれた講師は昭和大学病院リハビリ科の宮川哲夫さんで、理学療法士と呼吸療法士と紹介されておりました。

ハーモニカが出て来たあたりを少し詳しく説明しますと、

Q 呼吸筋の衰えを予防するには、次のどれが良いか？

①息を止める練習、②ハーモニカの演奏、③背筋を延ばし姿勢を矯正の正解として、②のハーモニカが呼吸と同じ動作を繰り返すので良い、と説明されておりました。それ以上ハーモニカについては触れられておりませんが、後の講義の内容より判断すると、ハーモニカの演奏は腹式呼吸（または丹田呼吸）を前提としていると私は解釈しました。

腹式呼吸は、鼻から息を吸ってお腹（ナカ）を膨らませ、口から吐き出すが、その時には腹を凹ます。そして、ゆっくりと長く吐く。吸う時間の3倍位の時間をかけて吐く、そのため【口すぼめ呼吸】と名付けてフーッと深くゆっくり吐く。この口をすぼめる形は、フーッと声を出す気持ちと説明していましたが、私にはまさしくハーモニカの演奏だと直感しました。

浅く速い呼吸より深く遅い呼吸の方が、酸素の摂取量が多いことや、腹式呼吸の方が血液の中の酸素の量が多くなることなどを測定器で示され、横隔膜の鍛練方法として、仰臥して腹式呼吸をする時に下腹部に塩袋などの重りを置く、など、実際にすぐできることが実演されておりました。



96/11/9 大盛況だった
関西ハーモニカポップス定期演奏会

私のハーモニカ人生

北千里ハーモニカファミリー 生みの親
北尾 郁子

山紫水明の故郷、前方には、優雅な桜島を仰ぎ、ワラビキ屋根、囲炉裏を囲み、祖父母を始め、たくさんの家族と共に暮らした、幼き日の故郷、父はよく暇があれば、ハーモニカを吹いていました。その父が、私は大好きで、何時も、ハーモニカを吹き出すと、父の側で聞き、教えてもらった、懐かしい思い出を、父からの遺産として、五十年たった今、更めて勉強致しております。

現在は、多くの指導者、先輩の方々より、数々の技術、経験、豊かなハーモニカ人生を拝聴させて頂きました事を、心の糧として、日々を楽しく、ハーモニカと付き合っております。ハーモニカの美しい音色は、心身を清浄化し、健康へと繋がって行く様な気が致します。ハーモニカは、私にとりまして、心の宿り木と思っております。

その様な事をお伝えしながら、一人、二人と同好の志を勧誘しております。

芸の方は仲々上達致しませんが、皆様と共に楽しく演奏させて頂いたり、また、町内会に集会に、ハーモニカを吹かせて頂いております。

今回も失敗してしまったーと思いながらも吹いておりまして、

又、次の時も ハーモニカを聞かせてね。

と、という言葉に、気をよくして吹いております。只、精進あるのみと、肝に銘じ、健康に気を付けて、楽しんでおります。

先日、孫（男児）1才4カ月の前で、ハーモニカを吹きましたら、手を出しますので、口にもっていきまして、元気な孫ですので、吹いたり、吸ったりして、音が出るものですから、喜んで遊んでおりました。ぼつぼつ飽きの来ない様に、ハーモニカで遊ばせて見たいと思っております。娘夫婦も、私も楽しい夢が出来て、大変嬉しく思っております。

後になってしまいました。会報誌を楽しく読ませて頂いております。誠にありがとうございます。



96/10/20 ハーモニカコンサート
に出演の北千里ハーモニカファミリー

なぜハーモニカを吹くか、ハーモニカと健康

だから、これからもハーモニカを吹き
続けます

吉見 治

あなたは、なぜ今もハーモニカを吹いているのですか。

一口に「音色が好きだから」とかっこよく言いたいところですが、気持ちは複雑です。

平成元年の6月から始めたのですが、最初はうまくなりたいの一心でしたが、最近少し変わってきました。小学校4年の頃から耳で覚えた曲なら（ただしメジャー曲）何でも吹けました。そのことが大人になってから私の最大の欠点となりました。初見で吹けるようになりたいという目的は、今も達成していません。

ここ2、3年の間にやさしい曲なら吹けるようになりましたが、フレーズのこととなるとまだまだ先生の力を借りなければ人前で吹くことはできません。

コンサートや発表会に出る時は大変です。皆さんどんな曲もよく知っておられるので、いいかげんには吹けません。

又、合奏となると、その苦しみは一通りではありません。ある先生は、「ハーモニカこそ我が命」とまでおっしゃっていますが、私の場合は「ハーモニカこそ我が地獄」です。

ハーモニカ界の中には初見でスラスラと吹かれ、その上編曲までなさる方がおられますが、雲の上の人としかいいようがありません。

でも、最近ほとんどの方が私と同じ思いでおられることを知り、少しは気持ちが楽になりましたが、その反面うまくなるという目的だけでは、物足りなさを感じていません。

では、もっと勉強すればいいじゃないかと言われるかもしれませんが、これも又私にとって難解です。数学の足し算のように $1+1=2$ と明確に答えが出ません。

およそ、勉強と名がつく中では一番やさしいと思っていた音楽が、こんなにむづかしいとは思いませんでした。簡単だと思っていたハーモニカも、むづかしい方に入ると思います。何ミリでも位置を間違えると気持ちの悪い音が出ますし、ミリ単位で皆さん吹いておられることになります。

最近、NHK（2人のビッグショー）の番組の中で、歌手の堀内孝雄さんが「私はおたまじゃくしが苦手です。作曲する時はいつもポケットにカセットデッキを入れ、ひらめいたメロディーを口づさみ録音して、それを先生に譜にさせていただきます。」と対談の中で話されていました。それを聞いて、この人は勇気のある方だなあと思ったと同時に、私も勇気が湧いてきました。

人それぞれ得手不得手はあるものですが、だからといって、私達ハーモニカ吹きは、うまければ知識はどうでもいいということにはなりません。

初見で吹くということと、初級中級くらいの方なら教えられるだけの知識はつけたいと常々思っています。この目標がある限り、これからもハーモニカを吹き続けます。

次に暗譜のことで私が実感したことを述べます。本当は立って練習すると早く暗譜

なぜハーモニカを吹くか、ハーモニカと健康

できますが、長時間やりますと疲れますので座ってやる時は正座してやります。私の場合は、正座してやると確実に早く覚えられますので、一度試してください。もっとも私の場合、暗譜が暗音？か分かりませんが・・・

おじさん「この曲はどういうふうにして覚えたの」

孫、女8才「わからん、いつのまにかひける（ピアノ）ようになった」

この会話は私と孫の会話ですが、好きな曲は何回も何回もやっている内に暗譜しようと思わなくとも覚えてしまっています。やはり、繰り返し練習することが、暗譜につながるのではないのでしょうか。

本当の暗譜とは、ソロバンで暗算するときのように、五線譜が頭の中で次から次へと浮かぶのでしょうか。

最後に、私の悩んでいる問題に近い提言をしてくださった編集長と西日本コンテストを実現してくださった皆様に感謝して終わりにしたいと思います。

(追伸、何年後になるかわかりませんが、初見で吹けるようになれば、又この紙面を借りて発表できるのを楽しみに頑張ります。)

西淀川区 54才 吉見 治 電話 06 474 8728



96/9/25「複音奏者のための五線紙の楽譜の読み方」の研修をする指導部長白鳥達夫氏



Harmonica Parade
From Light Classical to Popular Favorites

音楽を演奏したいからハーモニカを吹く

吉村 則次

私は、ハーモニカだけが絶対的に好きだ、ということではない。

ハーモニカというよりも「音楽」全般が好きな訳で、若いころ（1950年台、昭和20-30年台）ラジオで、あるいはレコード屋の店頭で、聴かれるいろいろな素晴らしい音楽を、自分で演奏できれば素晴らしいことだろうというのが、そもそもの始まりであった。

あのころは、アルフレッド・ハウゼの「碧空」であった、「バラのタンゴ」であった、「奥様お手をどうぞ」であった。ヨハン・シュトラウスの「ウィーンの森」や「美しき青きドナウ」であった。

これらのラジオやレコード屋から流れて来る音楽を、自分で好きなときに好きな場所で、自分で演奏できればどんなに素晴らしいことだろうと思った。

そこで、そのころ自分でもやっと買うことができる楽器が、ハーモニカであったわけである。そのときもっと金があったら、アコーディオン奏者やギター奏者になっていたかもしれない。ピアノは考えも及ばない楽器であった。

音楽を演奏したかった訳であるから、特にハーモニカでなくてもよかったので、したがって今までいろいろ浮気をしてきた。ギターであり、アコーディオンであった。

しかし、やはり今はハーモニカしかない、ということになった。いまから（この年になって）他の楽器は習得できる筈はない。

音楽を習得し、楽器で演奏するというのは、楽しいことではあるが、一面修練である。練習もせずに気軽に演奏したいのなら、近代的なシンセ・キーボードかコンピュータ・ミュージックに行けばいい。

苦勞して、練習を積んで、音楽を演奏することにより、心が豊かになり、健康を増進し、幸せにし、人間を作るのである。

音楽を演奏することが、好きである。だから、音楽が演奏できるハーモニカが、好きなのである。

自分のために吹くのであって、（森本恵夫先生からお叱りがあると思うが）人が好もうが好まいが、人が感動しようがしまいが、かまってはおられない。

ナンとかカンとかむずかしいことを言っても、今となってはアレもだめになったし、コレしかないのである。森本恵夫先生ではないが、私も「ハーモニカこそ、我が命」となりつつある。

ハーモニカだけが健康にいいということではない。

次に質問の「ハーモニカを吹くと健康になるか」であるが、これは我田引水のために、ハーモニカが健康にいいと言いたい。ハーモニカは、確かに健康にいいと思う。

なぜハーモニカを吹くか、ハーモニカと健康

しかし、ハーモニカだけが健康にいいのではない。音楽が健康によく、楽器の演奏が健康によいのである。理由は次のとおりである。

- 1、上に述べたように、音楽を演奏すると楽しい、達成感がある。⇒幸せを感じる。
⇒体と頭にいい。⇒ハーモニカに限らない。音楽なら別の楽器でもよいし、コーラスや詩吟のように自分の声でもよい。
- 2、音楽を演奏するには、頭を使わなくてはならない。楽譜を見て、その音を楽器により作り出す。⇒ハーモニカに限らない。別の楽器も同じ。
- 3、ハーモニカを演奏するには、通常の人より多く空気を吸って吐く、また、呼吸を自然にまかせてするのではなく、コントロールする。⇒ハーモニカだけではない。すべての息を使う楽器がそうである。吸うときに音を出すのはハーモニカだけだが。他の吹奏楽器は、ハーモニカ以上に息をコントロールしている。
- 4、音楽を演奏するには、指先を使う。⇒指を動かすためには脳の神経を使う。
⇒健康に良い。脳卒中になった人がリハビリに、「くるみ」を持って指先を動かす練習をしているのを見てもわかる。ピアニストは長生きして生涯ピアノを弾いている。指先を使わない楽器を探すのはむずかしい。
しかし、他の楽器に比べればハーモニカは、基本的には楽器そのものを動かすので、指先をあまり使わない非常にまれな楽器ではある。バンフルートと共に非常にユニークな楽器である。もし、指先を使うことを重視するなら、他の楽器かワープロでも練習したほうがいい。
あえて理屈をつけるなら、複音ハーモニカでも、2本3本のハーモニカを同時に持って演奏する場合は指を使ってすばやく出し入れしている。クロマチックの場合は、正確にタイミングよく、スライド・レバーを速くあるいは遅く、入れたり離したりしなければならない。だからハーモニカも、この点でも、健康にいいと言える。
- 5、ハーモニカを吹くと、ハーモニカの友達ができる。⇒関西ハーモニカ連盟に入っ
て、ハーモニカが好きな人と付き合いができる。ハーモニカを吹く人なら関西以
外の人とも仲良くなる。⇒ハーモニカの活動ができる。⇒幸せを感じる。⇒健康
に良い。これはハーモニカ以外では考えられないことである。

以上



伝統のある関西ハーモニカポップス
練習風景

==ハーモニカカレンダー==

- 9/7 土 常任顧問小林忠夫ハーモニカリサイタル
賛助出演 和谷泰扶 京都ハーモニカクワルテットほか
京都コンサートホール小ホール
齋藤寿孝氏及び吉村則次氏による別記事ご参照ください。
- 9/8 日 当連盟主催、西日本ハーモニカコンテスト、宇治市文化会館
クロマチック・ソロ・クラシック8名、同ジャズポピュラー15名、複音14名、
アンサンブル7組、合計44名(組)が出演した。
結果は、前号に折り込みで入れましたが、再び本誌に掲載します。また、審査員
講評、優勝者の感想等も別記事ご参照ください
- 9/8 日 京都ハーモニカクワルテット「スカイふれあいフェスティバル」(京都
府総合見本市会館稲盛ホール)にて演奏
- 9/15 日 メルパルクホール '96関西国際歌謡選手権全国大会にて、特別顧
問徳永延生氏がピアノトリオをバックにゲスト演奏した。聴衆は歌謡曲ファンな
ので、五輪まゆみの「恋人よ」には特に大きな拍手があった。
- 9/25 水 関西ハーモニカ連盟研修会(講師、指導部長 白鳥 達夫)
福田診療所 友遊館
テーマ 複音奏者のための五線紙の楽譜の読み方
11名が参加し、五線紙の楽譜から数字譜への変換のしかた等を勉強した。
- 9/28 土 京都ハーモニカクワルテット「滋賀県養護学校音楽鑑賞コンサート」
で演奏した。
- 9/28 土 崎元讓氏が「グローバル・ピース・コンサート・in Osaka(森ノ宮ビ
ロティホール)」で演奏した。
- 10/10(木) - 12(日) 京都ハーモニカクワルテット「阪神大震災チャリティ
・コンサート」(沖縄県、那覇、石垣島)
- 10/12土 関西ハーモニカ連盟研修会(講師、副理事長吉村則次)
福田診療所 友遊館 テーマ 「カラオケで「宇治川哀歌」を吹こう」
ハーモニカ祭り(10/20宇治市)直前のため、ソロあるいはグループの練習
に重なったかたが多く、参加者はわずか5名であった。「川の流れるように」「宇
治川哀歌」及び「ハーモニカの詩」の3曲を材料に、カラオケでハーモニカを吹
く場合の問題的、注意点、技術的な面も説明し、どうしたから楽しくうまく行く
かを研究し、実習した。
- 10/13 日 10:00am 京都ハーモニカシックス
奈良県文化会館0742 23-8921で演奏した。
- 10/19土 京都ハーモニカクワルテット、「グリーンコーラス女性合奏団チャ
リティ・コンサート」(京都府立府民ホール、アルティ)でゲスト出演
- 10/20日 関西ハーモニカ祭り 宇治市文化センター
関連記事及び写真ページご参照ください。

- 10/22火 枚方市津田公民館 10/23水 枚方市牧野公民館
 クロード・ガーデン・斎藤壽孝コンサート
- 10/26-27 第1回アジアハーモニカフェスティバル 台湾、台北市
 参加ツアーは25日から28日まで、当連盟からはトリオで飛田保雄氏、野瀬敏雄氏、保理江元子氏がコンテストに参加された。日本からは飛田グループを含め、複音14、クロマチック2、アンサンブル8、合計24人(組)が参加した模様。なおツアーには48人が参加したとのこと。
- 10/26 土 京都ハーモニカクワルテット、KSBラジオ「桂都丸のサークルタウン」にゲスト出演
- 10/27 日 京都ハーモニカクワルテット、ソロコンサート(山口県日原町)
- 11/1 金 京都ハーモニカクワルテット、京都市呉竹文化センター「コンサート季節風」に出演
- 11/2 土、11/4 月 特別顧問徳永延生、港区、天保山マーケットプレースでピアノトリオをバックに演奏
- 11/9 土 関西ハーモニカポップス定期演奏会 朝日生命ホール
- 11/9 土 京都ハーモニカクワルテット、京都市立元町小学校音楽鑑賞会
- 11/13 水 連盟常任理事会、福田診療所友遊館にて97年度総会開催を決定しその準備(議題決定等)を行った。
- 11/16 土 徳永延生教室発表会、心斎橋国際楽器ホール
 F I H大会、西日本大会でも優勝している同教室の面々が生バンドで演奏しました。夕方には特別顧問徳永延生氏のライブ演奏があった。
- 11/16 土 平城東ハーモニカ同好会、平城東公民館祭りで演奏
- 11/16 土 京都ハーモニカクワルテット 大阪府高槻市 阿武山小学校音楽鑑賞コンサート
- 11/17 日 リリックアンサンブルの会
 阪急大宮駅ビル3階、J E U G I A大宮センター
- 11/20 水 研修会「和音の進行」、講師 指導部長 白鳥達夫氏
- 11/25 月-11/27 水 トゥーツ・シールマンズ
 大阪ブルーノートにて演奏
- 12/7 土 京都ハーモニカクワルテット、京都市 洛陽教会チャペルコンサート
- 12/8 日 京都ハーモニカクワルテット、滋賀県、湖東町立図書館ソロ・コンサート
- 12/13 金 特別顧問徳永延生 ハーモニカ・クリスマスコンサート
 大阪府立文化情報センター主催、ピアノ高岡正人等、場所、同センター
 問、06 444-1011 事前にお知らせできなかったこと、残念

TOOTS THIELEMANS
 PHILIP CATHERINE AND FRIENDS

TWO GENERATIONS



これからのコンサート等の情報

- 12/18 水 6pm 関西ハーモニカポップス友の会演奏会、
大阪府立文化情報センター、問、友の会事務局 大石 0726 41-2087
- 12/22 日 徳永 延生 CD発売記念コンサート
京都 JEUGIA 三条本店6階 問、JEUGIA 三条本店 075 254-3700

連盟ハーモニカ祭りは、11/30 日曜
兵庫県民会館9階ホールにて

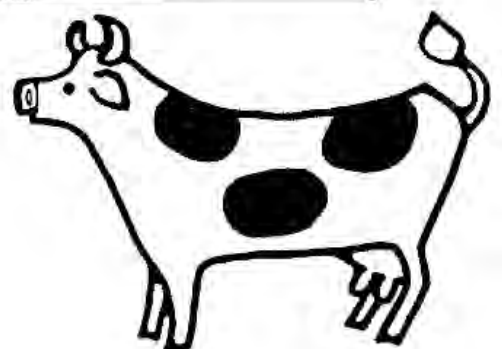
97年度連盟行事日程

- 1/15 祭 理事会及び総会、懇親会 招集通知ご参照ください。
- 1/31 年会費納入期限
- 3/15 会報97/4号発行 総会結果報告(新役員、改正後規約、年間計画等)
- 5月 ハーモニカ祭りのための委員会 実施要綱、応募要領、係員等決定(予定)
- 6/15 会報97/7号発行 ハーモニカ祭り出演者募集(予定)
(6/29 日本ハーモニカ芸術協会関西支部連合会コンサート 予定)
- 7/31 ハーモニカ祭り出演申し込み締め切り(予定)
- 9/15 会報97/10号発行 ハーモニカ祭りプログラム送付(予定)
- (10/16-19 ドイツ、世界ハーモニカフェスティバル
参加の旅ツアー募集予定、詳細未定)
- 11/30 日 連盟ハーモニカ祭り、兵庫県民会館9階ホールにて
平成6年(1994年)実施したところと同じ場所です。
- 12/15 会報98/1号発行

1997年度他のハーモニカ団体の予定

未確認部分もありますので、確定日時はそれぞれ関係団体に確認ください。

- 3/16 日 長崎ハーモニカコンサート
- 4/13 日 NHC30周年ハーモニカコンサート 川口市
- 4/26 土 日本ハーモニカ芸術協会 総会と大矢博文ハーモニカリサイタル
東京銀座ヤマハホール
- 4/27 日 全日本ハーモニカ連盟総会 東京お茶の水 ホテル聚楽
- 8/19-8/23 アメリカハーモニカ協会大会 デトロイト
- 9/27 土 東北ハーモニカ連盟コンサート 盛岡市
- 10/16-19 国際ハーモニカフェスティバル ドイツ トロシゲン
- 11/30 日 関西ハーモニカ連盟 ハーモニカ祭り 兵庫県民会館



1 - 3月研修会開催のお知らせ

指 導 部

各回共通事項

- 1、場 所 福田診療所 2階 友遊館
537 大阪市東成区東中本1-4-17 電話06 974-2220
(地下鉄中央線緑橋4号出口すぐ、見取り図は128号p41ご参照)
- 2、費 用 運営費及び資料印刷代として、1人500円
- 3、ミニコンサート
終了後ミニ・コンサートを予定しています。カラオケのかたはテレコ等各自準備してください。PA、MD、楽譜立て、マイク等は準備してあります。
- 4、問、指導部長 白鳥 達夫 電話 06 728-7951

1、『合奏用ハーモニカの楽しみ』

合奏用ハーモニカである、ホーナー48コード、ファン・コーデット20、ホーナー・ハーモネット、ホーナー・ポリフォニアⅢ、ホーナー・ビネット(現在はCメジャーを中心にしたものしかありませんが、近くAマイナーを中心にしたものが売り出される予定)、ホーナー・バス、トンボ・バス、グリッサンド等の楽器について解説し、その演奏方法を研究、さらに合奏を行います。合奏用ハーモニカを持っておられるかたは、それを持ってぜひご参加ください。

- 2、講 師 副理事長 吉村 則次氏
技術部長 宇佐美 進氏及びハーモニクス大阪
- 3、日 時 97年2月15日 土曜日 午後2時から午後5時まで
- 4、必要なもの 合奏用ハーモニカ、お持ちの複音またはクロマチック・ハーモニカ、筆記用具等

1、『簡単な和音の進行』 その2

- 2、講 師 指導部長 白鳥 達夫氏
- 3、日 時 97年3月12日 水曜日 午後6時から午後8時30分まで
- 4、必要なもの
ハーモニカ、五線紙、筆記用具等。

ハーモニカは楽器の王子様 ハーモニカ持って寄ってこーい

毎日文化センター・ハーモニカ教室

貴方のレパートリーを一曲ずつ増やして下さい

毎日新聞ビル2F (中級) 第1・3水曜日 10:00-12:00
中央郵便局の西200m (初級) 第2・4木曜日 10:00-12:00
Tel 06-346-8700 講師 ハーモニカ振興会認定指導員 入江章次

小さなオーケストラ

「小林忠夫ハーモニカリサイタル」 を聴いて

全日本ハーモニカ連盟
理事長 斎藤 壽孝

去る9月7日（土）の夜、「京都コンサートホール小ホール」で小林忠夫さんのリサイタルが開かれました。

私は、次の日は朝から、宇治でハーモニカ・コンテストの審査の仕事があるので、この日前泊しなければならないため、このコンサートを客席でゆっくり聴かせていただく機会を得ました。

会場の「京都コンサートホール」は北山に最近出来た施設らしいのですが、実に立派でユニークなのに関心させられました。少し早めに着いたので1階のホワイエ近くにあるカフェ・レストランでアペリティフをやっていると、奈良の上本洋さんにバッタリ。しばらくお喋りして気分が盛り上がってきたところでエレベーターで小ホールへ向います。

プログラムは、Ⅰ部が小林忠夫さんの複音ハーモニカ・ソロとドイツから駆けつけた和谷泰扶さんのクロマチックハーモニカ・ソロ。ピアノ伴奏は勿論、麻里子夫人です。そしてⅡ部が「京都ハーモニカ・クワルテット」のアンサンブルがあって、次に小林忠夫さんの複音加わり、タンゴを演奏。終わると「京都ハーモニカ・クワルテット」がギター掛布雅弥さんと交代して、タンゴを2曲演奏。最後は赤井由美子さんのピアノ伴奏で、小林忠夫さんがソロで複音とクロマチックの2種類のハーモニカを駆使して熱演。父娘の心温まるステージでした。

このコンサートは、こうしたプログラム構成の上でも聴衆を飽きさせない配慮がなされていた上に、気のきいたコメントを司会の北村智恵さんがヒットしていましたから、充実した演奏内容とあいまって、まことに格調の高いステージになっていました。

まず驚いたのはノーマイクであったことです。ハーモニカのコンサートというと必ずPAシステムを使うことが今では当たり前になっていますが、この日は会場の音響が頗る良いこと、クラシック曲が多かったことなどから、ノーマイク・スタイルにしたのだと思います。

久し振りに聴くアコースティックのハーモニカ・サウンドは素晴らしいものでした。電気増幅ではどうしても自然音そのものは再現できません。むしろ、自然音を素材とした音づくりにその特徴があるわけです。言わば化粧品といったところでしょうか。

PAシステムはマイクで集音した音をいったん一カ所に集め、それを左右のスピー

カーに振り分けるといものですが、音の出る所と聴こえてくる所が違うので、何となく不自然な感じがします。音の小さなハーモニカのソロにこのPAを使うと、一変して大迫力のオーケストラのようになるので、吹いている人は気分が良いのですが、聴いている人には会場いっぱいの巨大なハーモニカが鳴っているように感じます。

今回のコンサートがPAシステムを使わなかったことで、ハーモニカの音とピアノの音の大きさの違いも分かり、左手からハーモニカ、右手からギター、と音が立体的に聴こえます。そしてなによりも化粧なしの素肌の感じの自然な音に触れることができました。私は、可能な限りハーモニカのコンサートは、ノーマイクで聴きたいものだとつくづく思いました。

さて、演奏です。Ⅰ部はまず小林忠夫さんの複音ハーモニカのソロで始まりました。「夏の思い出」のあと「おぼろ月夜」「雨降りお月さん」「一五夜お月さん」「月の砂漠」「荒城の月」の5曲、いずれも月をテーマとした曲をメドレーで綴りました。庭の垣根越しに、隣の家から風に乗って聞こえて来るような懐かしい音でした。しかし、一時代前のスタイルではなく、いずれの曲も和音の処理がしっかり出来ていて、ある曲は声楽的に朗々と歌い、またある曲は器楽的という風に変化に富んでいます。最後の曲はモンティの「チャールダーシュ」。3本のハーモニカを目にもとまらぬ速さで駆使しての演奏です。体力でも、まだまだ若い者に負けないぞ、といった心意気を感じたステージでした。

Ⅰ部の後半の和谷泰扶さんのクロマチックハーモニカのソロは、まずレクォーナの「マラゲーニヤ」の無伴奏ソロからスタートしました。この曲はラリー・アドラーの演奏が知られていますが、和谷さんの演奏は、より一層洗練され、上品に仕上がっていました。2曲目は、ジェームス・ムーディの「トレド」。ピアノとびったり息の合った、格調の高い演奏でした。最後はマルコム・H・アーノルドの作品46番「ハーモニカ協奏曲」です。第1楽章の超スピードの半音階、第2楽章の弦のようなしなやかなレガート、第3楽章は速いパッセージの中に説得力のある詩を唱いあげています。演奏は自信に満ち、音に張りがあり、これまでよりひとまわりスケールアップした感じがしました。

Ⅱ部は「京都ハーモニカ・クワルテット」のアンサンブルで始まりました。1993年（第4回）、95年（第5回）と連続してワールド・チャンピオンシップスで優勝しているグループです。このところ、すっかり人気者となり、ステージも多いようです。男性は黒のタキシード、女性はラメ入りの赤い短い上衣にアラビア風のパンツは一瞬、ステージに花が咲いたようです。

「剣の舞」は一分の隙もない演奏。ボディ・アクションで感情の起伏を強調するところなど余裕すら感じます。続いてポピュラーから「9月の雨」と「タイガーラグ」の2曲。ステージは、リラックス・ムードで場内からはグッと引き付けたところで、ラストは歌劇「サムソンとデリラ」より「バッカナール」。この曲は小林忠夫さんが

コンテスト用にアレンジしたもので、予定どおりバッチリきまって、次に小林忠夫さんがこれに加わってタンゴの名曲「パリのカナロ」を演奏しました。小林忠夫さんは、複音ハーモニカを日本使って、くるくると変化する転調をこなします。アンサンブルが見事でした。

続いてはギターの名手掛布雅弥さんの登場です。小林さんのハーモニカとのデュオで、ピアソラの「組曲タンゴの歴史」より「Cafe 1930」「Night-Club 1960」の2曲を演奏。ピアソラのタンゴをハーモニカで吹いたことは、これまであまり例がなく、興味深く聴かせていただきました。タンゴの偉大なる改革者ピアソラの音楽の世界がホールいっぱいにはびこります。弦の奏でるハーモニカとリードのきらめきが微妙にマッチして実にいい感じでした。

このステージではアンコールがあり、ギターの掛布さんが、ソロでアルベニスの「セビリア」を美しく、そして力強いタッチで弾かれ、拍手に応じられました。

そして最後のステージは、小林さんのハーモニカと赤井由美子さんのピアノで、スッペの「軽騎兵序曲」とオッフェンバックの「天国と地獄」の2曲。いずれも手慣れたレパートリーで、父娘の息もピッタリと合い、まことに見事な演奏でした。小林さん時に応じてクロマチック、所によっては11本の複音を使い分けた余裕の演奏でした。

鳴り止まぬ拍手に照れながら答えるところなど、小林さんのお人柄の良さを感じました。アンコールは「トルコ行進曲」でした。

このコンサートはクリエイティブコンセプツという音楽事務所がプロデュースしましたので、ハーモニカの中の世界の人々を対象にせず、あくまでも一般の音楽ファンを意識に入れて企画・構成されています。会場の選択（これも厳しい管理体制＝例えば立ち見は厳禁、子供さんはロビーで待つなどが敷かれていました）、プログラムの構成、選曲、コメンテーターの起用、何もしないようできて細かい所まで配慮が行き届いていた演出など、どの項目を見てもプロフェッショナルな仕事でした。

主演の小林忠夫さんは、タキシードこそ着ていたものの、演奏は普段着のまま、気負いのない、本当にハーモニカを吹くことを楽しんでいるような演奏でした。といって演出にこだわらず、常に新しいものに挑戦する姿勢を崩さないところが立派だと思います。

一言で言えば「小林忠夫ハーモニカリサイタル」は素晴らしい「音楽会」でした。

☆☆———小さなオーケストラ———☆☆ 60705 49702
小林忠夫ハーモニカリサイタル GEN050114590

●主催：(株)クリエイティブコンセプツ
●後援：(株)EUGIA ●協賛：関西ハーモニカ連盟
●お問合せ：J EUGIA コミュニケーションフォーラム
tel. 075-221-7272

【当日¥3,500】

京者区コンサート小ホール

1996. 9. 7 (土)

5:30PM 開場

6:00PM 開演

前売

¥3,000【消費税込み】

9月
7日
(土) 夜
前売
¥3,000

60705 49702
GEN050114590
6706642899

J音楽企画

© 1996 Eugia Support ぴあ
6706642899

大盛況の小林忠夫リサイタル 賛助出演がまた豪華

吉村 則次

音響効果の素晴らしいホールで

リサイタルないしコンサートを開くということは、大変なことと思う。まかり間違えば大きな経済的損失と精神的痛手を蒙ってしまう。

マネジメント（プロデュースし管理を行う会社ないしは個人）があって、すべて完全にやってくれるならまだいい。すべてを自分でやらなくてはならない場合もある。

会場の予約、チラシやプログラムやチケットの印刷、リハーサルの手配、いろいろ仕事がある。それに当然一番大きいのが自分の練習。

うまく演奏が行くだろうか、伴奏者はうまくやってくれるだろうか、客に受けるだろうか。客が入るだろうか、風邪を引かないだろうか、ハーモニカはうまく鳴ってくれるだろうか壊れないだろうか、台風は来ないだろうか、交通機関は通常どおり動くだろうか、時間どおり収まるだろうか、、、心配は山ほどあるに違いない。

それを小林忠夫氏が9月8日やった。京都市の北部、北山にある、京都コンサートホール小ホール。

株式会社クリエイティブコンセプトが主催であるが、小林忠夫氏本人が相当部分を分担されたものと思う。

席数約500の非常に音響のいいホールであった。ほぼ円形で、音響の効果を考えたか、床は木がむきだしで、カーペットは敷いてない、したがって歩くと革靴の音が響く。また、椅子の背もたれはパッドがなく堅い木であつた。これも音響を考えたことだろう。こういうホールなので、マイクなしのハーモニカもよく聞こえた。よく聞こえたというよりも、和谷泰扶氏の音は、やかましいくらい大きく聞こえた。

電氣的リバーブ等を使わない、複音ハーモニカの自然の音がこんなに美しいと思ったことは今までなかった。

また、ホールの案内人がまた厳しく、騒々しい客に注意をしていたし、当然曲の途中の出入りはさせていなかったということも、音の美しさを助けていたと言える。

ただし、音を大きくしたり加工するという理由ではなく、楽器の間の音の大きさの差を調整するという意味で、カルテットにはマイクを使ってほしかった。素晴らしいバスとコードの音が聞こえにくかった。

豪華な賛助出演

小林忠夫氏の「ファミリー」といえる和谷泰扶氏がドイツから駆け付けて演奏した。

京都ハーモニカクワルテットも演奏した。

これだけ豪華メンバーが揃えば、コンサートとして非常にレベルが高いものとなり、成功しない訳はない。それに伴奏が和谷泰扶氏の奥さんである和谷麻里子氏、小林忠夫氏の実の娘である赤井由美子氏、全部「ファミリー」である。

小林忠夫氏の甥であるという掛布雅弥氏が小林忠夫氏のタンゴをギターで伴奏した。

ピアソラの曲をハーモニカで

当日のプログラムで、私としてはピアソラの「組曲タンゴの歴史」からの2曲が特に興味を引いた。「Cafe 1930」と「Night Club 1960」。スパニッシュ系の音楽を得意としておられると感じられる掛布氏のアコースティックギターのいい音色に乗って、小林忠夫氏の複音が響いた。本日の圧巻であった。

従来から多く吹かれている曲のみを演奏するのではなく、このように新しい曲をハーモニカに乗せられる小林忠夫氏の努力は素晴らしい。聴衆を飽きさせない。

聴衆に若い女性が多かったのも、そういう理由によるものではないかと思う。

和谷泰扶氏の曲目には、私のようにハーモニカのコンサートには必ず出向くというものにとっては、新しいものはなかった。

ソロ・クロマチックで「マラーゲーニャ」を非常に丁寧に吹いておられた。しかし、彼の音はなぜあんなに大きいのだろう。

京都クワルテットの曲目は「9月の雨」を除いては、私にとっては、通常のレパートリーの曲であった。得意な「サムソンとデリラからのバッカナール」、「タイガーラグ」、「剣の舞」であった。上に述べたように、楽器間の音量の差を調整する意味でマイクを使ってほしかった。

当日のプログラムは次のとおりであった。

◎小林忠夫、複音ハーモニカソロ

夏の思い出、おぼろ月夜、雨降りお月さん、十五夜お月夜さん、
月の砂漠、荒城の月、チャールダーシュ

◎和谷泰扶クロマチック・ハーモニカソロ

マラーゲーニャ、スペイン風幻想曲トレド、アーノルドのハーモニカ協奏曲

◎京都ハーモニカクワルテット

剣の舞、9月の雨、タイガーラグ、サムソンとデリラからバッカナール

◎小林忠夫&京都ハーモニカクワルテット

パリのカナロ

◎小林忠夫&掛布雅弥（ギター）

ピアソラのCafe 1930、Night-Club 1960

◎小林忠夫、複音ハーモニカソロ

軽騎兵序曲、天国と地獄

ハーモニカで「タンゴ」を

入江章次

ハーモニカでタンゴを演奏される方が時々居られます。ほとんどは、コンチネンタル・タンゴです。私はアルゼンチン・タンゴも好きで、両方とも演奏します。

コンチネンタル・タンゴではアコーディオンが、またアルゼンチンタンゴではバンドネオンが、主役を演じる。どちらもリード楽器で、ハーモニカもリード楽器であることから、音色も似て居る。逆にハーモニカで演奏するにはどんな曲が向いているかと言うと、タンゴやシャンソンが向いていると、言えるのではないだろうか。

タンゴにはラ・クンバルシータという、不随の名曲があり、この曲はレコードやCDのソフトの数が、最も多いのではないだろうか。次から次に編曲しては演奏されても、まだまだ編曲に耐える（変な言い方だが）。そこが名曲の名曲たる所以である。「枯葉」も同じことが言えるのではないだろうか。皆様も是非とも名曲ラ・クンバルシータを演奏なさってみて下さい。どのようにでも曲想がつけられる名曲です。

そんなタンゴ界にまたまた異変が起きている。アストル・ピアソラに熱い思いを寄せる演奏家がクラシック界にまで広がってきた。ピアソラの作品はタンゴ界では、あまりにもモダンすぎてなかなか受け入れられなかった。1989年6月26日オランダの首都アムステルダムの中立劇場でのコンサートでの紳士淑女の興奮。そして最後はオスヴァルド・プグリエーセとの共演で聴衆の熱狂的な興奮にCDを聴いている私まで立ち上がってしまった。その翌年パリで倒れ、'92年7月5日アルゼンチンで永眠。

本年5月にはザ・フェニックスホールで、海外でも活躍しているサキソフォンの売れっ子、須川展也（のぶや）が、ピアノの小柳美奈子、バンドネオンの啼鵬とのトリオでピアソラを演奏したが、この演奏会がいつまでも終わらないでほしいと思うほど素晴らしい。9月にはなんとクラシックの殿堂ザ・シンフォニーホールでタンゴの演奏会が行なわれ、あの残響2秒のホールで聴くタンゴは、初めは異様な感じだったが、タンゴ狂達と聴いているうちに慣れてきて、よい命の洗濯になった。

この秋にはクラシック界で多数のCDが発売されましたので、一部ご紹介します。

- 1 POCG=1985 "ピアソラ・フォー・トゥー" パトリック・ガロワ fl, イェラン・セルシェル gt これを聴くと逆に、須川展也のすごさがわかる。
- 2 NONESUCH 79407-2 "HOMMAGE A PIAZZOLLA" ギドン・クレーメル vn 他もしピアノがアルゲリッチだったら、もっとすごいものになったと思う。この演奏を聴くと、あなたのきれいなお肌にも鳥肌がたってしまうだろう。
- 3 TELDEC 13474-2 "Mi Buenos Aires querido" ダニエル・バレンボイム P バンドネオン、ベースが加わったトリオでとても聴きやすい。
- 4 HMFDDKCC363 "テアトル・リウル室内管弦楽団" ポンス指揮 品切れ中
- 5 TOCT9101 "Cafe 1930 ピアソラに捧ぐ" 須川展也 Sax 他

聴いた4枚の中では、須川展也とクレーメルが素晴らしい。但しバンドネオンのテクニックは劣るが、ハートでそれをカバーしている。そしてクレーメルは、ハーモニカもこんな風に演奏してはどうだい？と言っているようだ。やはりヴァイオリンは、楽器の女王さまだと思ってしまう。ピアソラを聴いた後は、ほかのものがつまらなく思えてしまうところが、ピアソラのすごさだろう。 Fine.

The Desert Caravan

B

Tempo di Marcia.

Oriental Patrol

J.S. Zamecnik.

Arr. by Akio Ulyehara.

3/4 *pp* 6̣ 3̣ 3̣ | 6̣ 1̣ 6̣ 1̣ | 6̣ 5 | 3 - | 232 | 66 | 6 - | 7123 | 6 - |

7124 | 3 - | 6 5 | 3 - | 232 | 66 | 6 - | 7124 | 1 7 |

6 - | 6 - | 5555 | 6666 2̣ | 5555 | 6666 2̣ | 3377 | 3377 | 3377 | 6 |

2̣ 2̣ 3̣ 3̣ | 5432 | 5555 | 6666 2̣ | 5555 | 6666 2̣ | 3377 | 3377 | 3377 | 6 |

2̣ 2̣ 3̣ 3̣ | 3346 | 3327 | 3346 | 3327 | 3333 | 3345 | 6 5 |

3 - | 2̣ 2̣ 1̣ 66 | 6 - | 7123 | 6 - | 7124 | 3 - | 6 5 |

3 - | 2̣ 2̣ 1̣ 66 | 6 - | 7124 | 1 7 | 6 - | 6567 | 1 - |

7 5 | 6 - | 6 35 | 6 35 | 6535 | 2 - | 2 23 | 4 4 |

4 32 | 3235 | 5 45 | 66 | 6 53 | 7 - | 7567 | 1 - |

7 5 | 6 - | 6 35 | 6 35 | 6535 | 2 - | 2 2 | 3 3 |

永久 欣ラマ氏 ご提供
ツァメニック作曲、上原秋雄 編曲、存中深窓の匠家 高野
上原ハローモニカ楽譜No.27 大正15年 ヒノ楽社発行、20銭

3 2̣ 1̣ | 6165 | 3123 | 5 - | 6 - | 1 - | 10 10 | 6 5 |

3 - | 232 | 66 | 6 - | 7123 | 6 - | 7124 | 3 - | 6 5 |

dim. 3 - | 232 | 66 | 6 - | 7124 | 1 7 | 6 - | 6 - | 5555 |

6666 2̣ | 5555 | 6666 2̣ | 3377 | 3377 | 6 | 22 323 |

5555 | 6666 2̣ | 5555 | 6666 2̣ | 3377 | 3377 | 6 | 22 323 |

3 3 4 6 | 3 3 27 | 3 3 4 6 | 3 3 27 | 3 3 3 3 3 3 | 3 3 4 5 |

p 6 5 | 3 - | 232 | 66 | 6 - | 7123 | 6 - | 7124 |

3 - | 6 5 | 3 - | 232 | 66 | 6 - | 7124 | 1 7 |

6 - | 6367 | 6 5 | 3 - | 3 - | 3367 | 6756 | 3 - |

3 - | 3 12 | 3 - | 3 12 | 3 - | 3 0 | 60 0 |

大いに楽しんだハーモニカコンベンション — アメリカハーモニカ協会のコンベンションに参加して —

吉村 則次

ほほ笑みと挨拶と握手の5日間

関西ハーモニカ連盟企画、JTB主催、「森本恵夫氏と行くアメリカハーモニカの旅」は、その後計画の変更があり、結局8月18日曜日出発、29日木曜日帰国という1泊12日の行程で実施されました。

96/8/20(火曜日)から96/8/24(土曜日)まで、セントルイスで行われたアメリカハーモニカ協会(以下SPAHと略、私ほか日本のかた10名ほどが会員になっている)の5日間の定例の年次コンベンション(大会、お祭り)出席がメインの目的で、前後にセントルイス観光とホノルル観光及びホノルルのハーモニカ団体との交流を行いました。

当初の計画では森本恵夫氏及び大矢博文氏の率いるオジョイメイトリオを含め15名ぐらいを引き連れて乗り込み、日本のハーモニカの力を示すつもり計画しましたが、当連盟の多数のかたも含め参加を検討されたにもかかわらず、色々個人の事情があり、一人一人脱落して、最終的に当連盟特別顧問森本恵夫氏、当連盟会員の大矢博文夫妻、それに小生の4人のこじんまりした個人旅行での参加となりました。

特に大矢博文氏が率いる、横浜大会2位のオジョイメイ・トリオのメンバーの内の一人が正式就職のため休みがとれなくなり、オジョイメイ・トリオとしての参加ができなくなったことが、やはり残念なことでした。

私にとって、SPAHの大会出席は91年デトロイト、94年メンフィスに次いで3回目であり、これに加え93年にはトロシングンの世界大会にも出席しましたが、やはり今回も行って良かったという感想です。

特にSPAHの大会は、トロシングンや横浜大会と異なり、一つのホテルを借り切って行われるので、セミナーやコンサートへの出席もしやすく、また、逆に興味あるプログラムがないときは、自分の部屋に戻って練習なり昼寝をしたり、あるいは、外に出て観光も行えるという自由さがあります。

参加者の殆ど全員がそのホテルに泊まっているので、全員がロビーやレストラン、あるいはホールやセミナールームにたろむして交流もしやすいものでした。

毎年毎年5泊5日の大会を開くパワーには感動します。

下に記載のプログラムのとおり毎日各種のセミナー、演奏会、フリー・ステージが行われました。

ハーモニカの店も開かれ、ハーモニカを始め、参加者が持ち込んだCD、テープ、楽譜、その他雑貨が売られます。

こういう大きな規模の大会は、ハーモニカの拡大発展に大きな意義があるので日本でもやりたいと思いますが、休みがとりにくい、費用がかかり過ぎる等の事情ありますので、実施に踏みきれないところです。

5日は到底無理としても、上日の1泊2日ぐらいのものならやれるのではないか、ぜひやりましょうと、森本さん大矢さんと話したものでした。

土曜日の夜の食事付き演奏会の費用を含めても、1万円あまりの参加費用（宿泊費は別）でセミナー、演奏会、フリー・ステージ等すべて賄えるのは不思議です。

ホテルの会場費が日本に比べてはるかに安い（？）、係員は全部ボランティアである、演奏者も少ないギャラ又は無報酬で来ている（？）、寄付を募っている等の理由によるものと思われまます。

今回の大会は、アメリカの中ほどにある、ミシシッピ川沿いのセントルイスというところのホリデイ・イン・ウエストポートという田舎のホテルで行われました。

セントルイスというと日本からの観光客はほとんど行かないところですが、「トム・ソーヤーの冒険」や「ハックルベリー・フィンの冒険」のマーク・トゥエインの世界であり、見るべきものも多く、音楽の面ではW. C. ハンディの「セントルイス・ブルース」、スコット・ジョプリンの「エンターテイナー」等の世界です。

外国からの参加者は、我々日本人4人にホンコンのキングス・クインテット（昨年横浜大会4・6人グループの第2位）とその家族、それにセミナー講師のダグラス・テイト（イギリス）のみの約15名ぐらいではなかったかと思われました。

全体の参加者は400人以上で、そのうち大部分が会場のホテルに宿泊しました。

これら400人が、5日間、それぞれハーモニカを持って、メイン会場、ロビー、セミナー会場、レストランやバーを埋めつくし、「ハーモニカの世界」を醸し出しました。

同じハーモニカ愛好者だからというわけだけではないと思いますが、顔見知りでない人も、会うたびに「ハイッ」とか「ハウア－ユー」とか、なんらかの言葉とほほ笑みを交換します。演奏したあとなどは「あれはよかった」「あなたは素晴らしい」と握手を求められます。

狭いハーモニカの世界ですから、当然知り合いや著名人も多く、今回は95年に中之島公会堂でも演奏してくれたビート・ピーダスン、それに「ジェリー・ムラッドとハーモニキャッツ」の初代コード奏者であるアル・フィオレ^{*}、ジェリー・アドラー等も、コンサートのゲスト演奏者としてではなく、自主的に参加していました。

その中に5月11日に亡くなられたジェリー・ムラッドの姿が当然ないことは、参加者にとって一抹の寂しさでした。

老齡化は日本以上か

アメリカのハーモニカ人口は日本以上に老齡化していると見受けられます。一部素晴らしい若手のプロや、生活がなりたっている奏者もいるにはいるのですが、大会への参加者を見る限りでは、老齡化ははるかに進んでおり、将来が危ぶまれます。

「いや若い人もいるのだが、こういうコンベンションに平日長期に出られるのは、現役から引退した人ばかりなのだよ」という回答が戻って来れば嬉しいのですが、どうもそうでもなさそうです。

つえや車いすや補助器具を付けて参加しておられるかたも多くおられます。90才

＊アル・フィオレは、96年10月にお亡くなりになりました。

アメリカ・ハーモニカ・フェスティバル
にて



ミシシッピ川のリバ・ボートの前で
左から大矢氏夫妻、森本恵夫氏、吉村則次氏



今回のメインゲスト、マイク・ターク



ハーモニカフェスティバルのフリーステージ



アメリカのハーモニカ愛好者も高齢化
ダイトウェイ・ハーモニカ・クラブ



アメリカハーモニカフェスティバルにて
複音ハーモニカのセミナーを行う
森本 恵夫氏

アメリカ・ハーモニカ・フェスティバルと
 ホノルル、ワタヌキ・ハーモニカ・スタジオ
 オにて



ホテルのロビーでもアンサンブルが始まる

ホノルルのワタヌキハーモニカスタジオで演奏する
 森本恵夫氏と大矢博文氏



本格的フラグランスも加わる
 ワタヌキ・ハーモニカバンド



ホノルルのワタヌキハーモニカスタジオの皆さん

で歩行補助器具を使って、付き添いなしの一人で、飛行機に乗って、ホテルのシャトルバスに乗って、アリゾナから参加している人もいました。これにはハーモニカへの愛と熱意という大きな力を感じさせられました。

高齢者や障害者に対するもろもろの設備や、彼らを助けようと手を出す一般のかたの気持ちがこのを支えているものではありませんが、日本で同じことができるかどうか疑問です。

隠れた演奏家がまだまだ マイク・タークはその一人

高齢化が急速に進んでいるとはいうものの、アメリカのハーモニカの層の厚さは、すごいものだと思います。また内容的にも日本のハーモニカの世界とは全く違うものが感じられます。

その一つは、まだまだ隠れた、我々に知られていない素晴らしい演奏家がいるということで、今回は、ジャズのマイク・タークという人のセミナーに参加し、また演奏に接しました。

私は、リチャード・ハンターという人の「ジャズ・ハーブ」という本（日本版もあり）でこの人の名前を知り、3年前、彼の最初のCDで演奏に接したのですが、日本の人にはまったく知られてない人でしょう。ボストンの郊外のケンブリッジに住んでいる人で、音の美しさ、演奏の上手さは素晴らしいものがありました。ジャズの教育で有名なボストンのバークリー音楽学院出身のかたで（ウィリアム・ガリソンがそうであったし、エディ・マンソンはジュリアード音楽学校出身）、こういう本格的に音楽を修得して来たハーモニカ奏者がいるのもアメリカの強みです。

その他、土曜日のガラ・コンサートで、ハリー・ビー、エレクトラ・トリオ、ダグラス・テイト等の無名ではあるがすばらしいかたの演奏に接し、SPAHストアで売られていたテープにより、クラシックのロバート・アブララッハ（南米のかたか？）、ポール・デイビス、ジーン・フィニー等を新たに知ったことも良かったと思います。

うまいコードとバスの奏者

ご存じのとおり、アメリカでは複音ハーモニカは全くといっていいほどなく、すべてクロマチックとテンホールズの世界です。これが基本的には日本のハーモニカと大きく異なるところで、トリオを始めアンサンブルが発展したようです。このため従来から映画館やホテル等での演奏の仕事の場があったようで、

コード奏者、バス奏者の層の厚さとうまさにはあきれるほどで、トリオが多く生まれます。コードとバスで、全く知らない人のバックをできる人が何人もおられます。

スケジュール・パフォーマンス（申し込みを受け付けて毎夜プログラムを決めて行われる夜のコンサートで、私も森本恵夫氏も演奏した）の申込書に「コード、バスの伴奏者は必要ですか」という問い合わせの欄さえあるほどです。

このように伴奏者が多くいますので、参加者はステージだけでなく、ロビーでも通

路でも知らない人同志が集まってアンサンブルを始めます。それも、C調やAマイナーの易しい曲ではなく、複雑なものまで、ソロ、アマ関係無く集まり、ソロにバス、コードが加わって合奏をします。こういう場から本格的なトリオなどが生まれて来ることもあると思います。

ハーモニカはショー・ビジネスの世界

アメリカのハーモニカの歴史は、日本のそれと違うものがあります。すなわち、ステージでの演奏より、テレビがなく映画が娯楽の中心であった時代には映画の合間に演奏したりすることが多かったようですし、現在でも、ホテルのショーで演奏したり、クルーズシップに乗り込んで演奏したりする場合があります。

したがって、彼らは、まじめな演奏家というよりショーマンとしての素質を備えており、演奏も「はで」で、人を笑わせるのも一流という人が多いようです。ジュリー・ムラッドもそうだったし、ピート・ピーダスンもその一人です。

クラシック演奏が殆どなく、ポピュラー音楽が幅をきかせているのも、仕事の場との関係でしょう。

今回、ゲスト出演の、我々には無名のハリー・ビーやエレクトラトリオ、その他アル・スミス等は現在でもショー・ビジネスの世界に籍を置く人らしく、手振り身振りも大きく使い、合間に駄洒落を入れたり、ショーそのものです。演奏も素晴らしいものではありますが、これ以外に人を引き付け、お金をとる才能を持っているようです。

森本恵夫氏が複音セミナーも開催

我々が今回参加した目的は、我々が各国からの参加者と交流して楽しむだけではなく、日本のハーモニカの主流である複音ハーモニカの良さを紹介しようとするものでした。

大矢氏が23日のフリー・ステージで複音ハーモニカで「マリネラ」と「セレソ・ローサ」の2曲を演奏、森本恵夫氏が夜のステージで「禁じられた遊び」を複音で演奏しました。これに対し聴衆は立って拍手をしてくれました。小生はピート・ピーダスンに敬意を表し、同氏のアレンジによる「インドの歌」を同氏が作成した伴奏で演奏しました。

また、94年のメンフィスに引き続き、日本の複音ハーモニカの良さを紹介するべく、森本氏が、大矢氏の協力、小生の通訳で1時間半に亘り、「複音ハーモニカセミナー」を行いました。3-4本の複音ハーモニカを持って半音奏法、また舌を使っての分散和音奏法、バイオリン奏法等を聞いて、参加者はその超舌（超絶）演奏に舌を巻いていました。

最終日のパーティの演奏会の合間には、森本恵夫氏の「白鳥の湖」のCDをPAが流してくれて森本恵夫氏のCDの売上が伸びました。

ハーモニカのCDテープやTシャツも豊富

コンベンションの楽しみの一つは、そのハーモニカストアです。ハーモニカのCD、テープ等は、残念ながら殆ど自主製作で、一般の店頭には並ぶものはまれです。

このコンベンションには、そのような、ここでしか買えない録音物、楽譜、書籍、それにTシャツ、アクセサリ等が並びます。

私も、ここでCD1種、テープ11巻、ハーモニカTシャツ2枚、合奏譜1冊、レッスン書2冊、アクセサリ類を購入しました。

森本恵夫氏もCD4種をここに販売委託し、人気を得ました。

ホノルルでも演奏会を開催

帰りには、ホノルルのハーモニカ愛好者と交流すべく、3泊しました。

森本恵夫氏の知り合いの、ハワイ在住のHOSHII氏という日本人が、ホノルルの日系人社会で「ワタヌキ・ミュージック・スタジオ」というハーモニカとカラオケの教室を開いており、同氏とそのグループが森本恵夫氏が来るのを機会に、交歓演奏会の場を作ってくれたのです。

我々のアメリカ滞在の最終日の8月27日夜、ホノルルの天台宗ホノルル別院というところで、なんと約100名の愛好者が、我々3人（森本、大矢、吉村）を聞きに来てくれました。

同教室は複音の合奏を中心にしており、そのバンドも演奏されました。

日系人という特殊なコミュニティではありますが、アメリカで複音ハーモニカを教えることに全力を尽くす先生がおり、また、多くの習う人がいるということを知ったのは、非常にうれしいことでした。

バンドの演奏は、まだまだ譜面を追っているのみという感じでしたが、あれだけの指導と熱意があれば、将来が楽しみです。

いつか、機会があったら、日本に来て演奏して欲しいものです。

当然、日系社会で好まれるものは日本の歌なので、我々もその線に沿って日本の歌謡曲（森本恵夫氏が複音で「忘れなぐさ」「男船」、私がカラオケ伴奏のクロマチックで「愛燦々」と「無言坂」）を中心に演奏し、これに森本恵夫氏が「禁じられた遊び」、大矢氏のコードと共に「ギャロッピング・コメディアン」を加え、大喝采を浴びました。

大矢氏は、複音ハーモニカの特殊な奏法やコードの説明もされました。森本恵夫氏のCDが売り切れたのも当然でした。

ハーモニカを愛好しているお陰で、国内のみならず世界中にもいろいろ知り合いが増え、普通の日本の観光客が行くこともないような街（デトロイトやセントルイス、トロシゲン）にも行くことができ、喜びと幸せを感じることができて、ハーモニカを吹いていてよかったと思いました。

今年（97年）は10月16日から19日まで、ドイツのトロシゲンでコンテス

トを含んだ世界大会が開かれます。ぜひ一緒に行きましょう。

SPA H大会の大体の内容

9:00 a mから4:00 p mまで、セミナー

3:30 p mから5:30 p mまで、フリーステージ及び「みんなで吹きましょう」

7:00 p mから11:00 p mまで、演奏会

セミナーのテーマの一部

バスの吹き方、コードの吹き方、テン・ホールの吹き方、テン・ホールでのジャズ、クロマチック・ハーモニカ・ジャズ、コンピューターによるアレンジの方法、子供にハーモニカを教える方法、クロマチック・マスター・クラス、カントリー・チューニングのハーモニカの吹き方、アンサンブルの構成方法、音楽をどうしてハーモニカに置き換えるか、複音ハーモニカの演奏方法、修理の方法、ハーモニカクラブの運営方法、レパートリーの拡大方法、等々

以上

**Meet me in
St. Louis...**



SPA H 1996

盛況をきわめた関西ハーモニカポップス 定期演奏会と演奏者の思うもの

関西ハーモニカポップス会長 酒井 涼爾
(関西ハーモニカ連盟常任顧問)

関西ハーモニカポップス第21回定期演奏会が、11月9日(土)午後大阪淀屋橋の朝日生命ホールで開かれた。開演1時間前からファンがどしどしつめかけ、定員を百名以上も超過して補助椅子も足りず、立ち見する盛況となり、メンバーも大張り切りで、ファンと揮然一体の楽しい2時間を過ごした。

今回はハーモニカ渡来101年目の新しいスタートとて力強いマーチをテーマとし、第1部第2部は各国のマーチでつづられ、第3部は吉森さんらの独奏、重奏、第4部はオールドファンにお馴染みのタンゴやルンバなどの合奏で幕を閉じたが、この定演にここ10年間欠かさず東京から夫婦でかけつける全連参与の三島毅男氏(酒井とは昭和10年頃からのミヤタバンドの仲間で、故古関裕而氏に次いで指揮者30余年、コロビアの作曲家でもあった)も、いつもの毒舌もなく、盛況にのまれたようであった。

ポップスの定演が、今までにない盛會になった要因は、大石喜一郎さんら実行委員会の献身的準備活動、新聞・ミニコミ紙による報道、ファンによる友の会の存在、長年にわたるポップスの地道な演奏歴などがあげられるが、中央に一步遅れていた関西に漸くブームがしのび寄ったように感じる。

しかし若い層にファンを広げている東京に比べて、大阪のファンのレベルは相当に異なっている。定演に来場した層は50才以上の年配者で占めていたが、この人達に声を求めると、ハーモニカの持つ情感が好きとか、ハーモニカに親しんだ若い頃が懐かしいというもので、ニュー・ミュージックや難解なクラシックには拒否反応すら示していることも素直に受けとめたい。

最も大衆的で可愛いハーモニカであるからには、その特色を生かすべきであるし、ファンの層も、分かり易く、懐かしく、楽しい曲を望んでいるからには、私達演奏者も謙虚に大衆の要望に応え、プログラムも十分な配慮が必要であろう。演奏者が幼稚な楽器と思われたくない意識から、敢えて難解な曲を大衆に押し付けたとすれば、かえってハーモニカ離れをつくってしまうのではあるまいか。

まず、年齢層は高いがハーモニカ好きのファンを定着させ、更に拡げるのが当面の私達の運動で、来場者の頭数を数えながら一喜一憂した過去の演奏会の苦しみを脱しなくてはならない。定着したファンを基盤にして、次代の若い層への拡大を将来の夢にしたいものである。

ハーモニカは、「楽しく聴け、自分でも吹け、最も身近にある」ものであることを実証するのが私達演奏者であると、しみじみ痛感した定演であった。

以上

本件の関連写真は、22、23、28及び右の50頁をご覧ください。

原稿募集

20年後の日本のハーモニカ

編集局

今から20年後、即ち2017年（平成であれば平成29年）、日本のハーモニカはどうなっているのでしょうか。

ハーモニカ全体としてはどうなっているのでしょうか、複音、クロマチック、テンホールとそれぞれ分けて考えるとどうなっているのでしょうか。クラシック、ジャズ、ポピュラー、童謡、歌謡曲等に分けて考えるとどうなっているのでしょうか。

我々の関西だけを見ると、どのようになっているのでしょうか。日本全国ベースで考えると、どうなっているのでしょうか。

まじめな推定、希望的観測、このままではどうなっているか、もし我々がどうすればどうなるか、こういうことをしなければこうなるだろう、等々提案も含めをお聞かせください。

ハーモニカの拡大発展のために、問題発言、爆弾発言、多くの人から非難を受けるかもしれない発言、特定の人に迷惑をかけるかも知れない意見等をも、包み隠さず、投稿希望します。

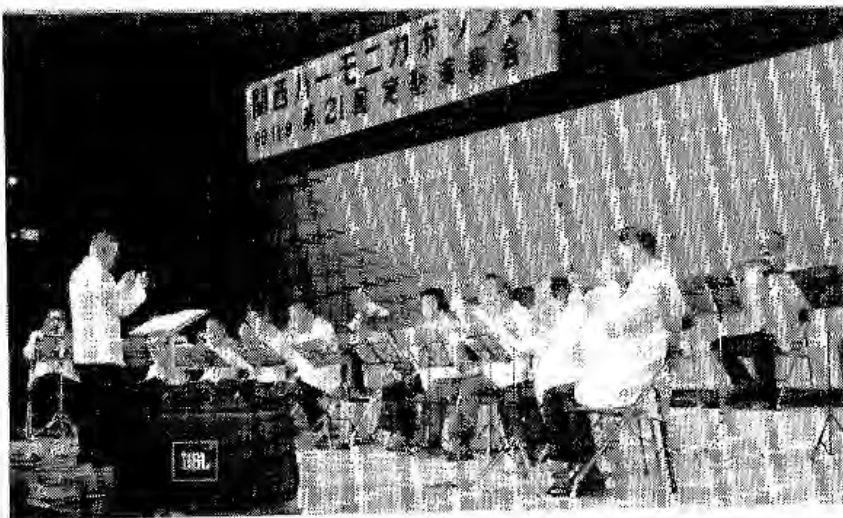
「事勿れ主義」「なあなあ主義」や「和を以て貴しとなす」「現状のままの延長拡大」の精神では、短期的視点ではいいのかもしれませんが、20年後のハーモニカのことを考えると、よいこととは思われません。

記名を原則としますが、テーマの上から、また自由な意見を出していただく点から、匿名を希望される場合は編集局長にご相談ください。

（本件提案者の編集局長は、現在61才で20年後は81才、どうなっているかわかりませんが、ハーモニカ愛好者として個人的に、また連盟の役員という現在の立場で、20年後のことを非常に気にしており、また意見も持っております。20才台、30才台、40才台、50才台、60才台あるいは70才台等広く多くのかたから意見が欲しいと思います。）

原稿締め切り 97/2/15

以上



最近買ったハーモニカCD等（前号掲載分以降のもの）

吉村 則次

演奏者、タイトル、発行会社(国、レーベル)、番号、購入先

◎FATA MORGANA

Way to Your Heart、Germany Hohner HR08.099.432 オランダの友人からもらった。FATA MORGANAはオランダの若い四重奏団である。アンサンブル部門で数回世界チャンピオンになっている。今までテープは出ているが、CDは初めてである。今年の製作。いつもながら編曲が非常に良く、リードと共に2ndパートが生きている。Hohnerから出ているので、やがて日本でも入手可能になるかも知れない。ピート・ピーダスンが推奨文をジャケットに書いている。

◎MIKE TURK

Monica Hatch/If You Never Come To Me....、USA Brownstone BRCD956

◎MIKE TURK

Paul Broadnax/It's About Time、USA Brownstone BRCD941

以上2件いずれも、マイク・タークから彼のリーダーアルバムTURK'S WORKS（同封チラシのとおり）を国内販売するために大量購入したのに伴い、贈呈されたもの。いずれも本人はサイドマンとしてハーモニカを演奏している。前者には5曲、後者には4曲、バックで演奏している。取り寄せ可能

◎HENDRIK MEURKENS

Manfredo Fest/Comesar de Novo、USA Concord Jazz CCD-4660 鯨鯨H M Vで購入
Manfredo Festはピアニストであり、ヘンドリック・ミューケンスがハーモニカで12曲中6曲に演奏している。

◎CHAM-BER HUANG

Music that Touches the Heart、USA CBH Insignia Research Labs、本人から購入
チェンバー・ファンがクラシックの小品を17曲演奏している。チェンバーにとっては久々の録音である。

◎TOOTS THIELEMANS

Jazz Masters 59、USA Verve 314 535 271-2、東京池袋H M Vで購入
トーツ・シールマンズの過去のLPやCDからの寄せ集めである。すでにシールマンズを多く持っているかたには必要ない。

◎JAN VERWEY

The Miles Davis Project、Netherlands WILLIBROAD JAZZ WJ2076-1、

東京池袋WAVEにて購入

ジャン・フェルヴェイはヨーロッパのハーモニカ奏者である。今まで数枚CDを出しているほか、他の人のアルバムにもサイドマンとして演奏している。

今回はマイルス・ディビスの曲ばかりというすこぶる難しいことをやっている。

◎RON KALINA テープ

The New World Harmonica Trio/Time Was, USA Kalinor Music、ビート・ビーダスン

経由もらったもの。ロン・カリナはアメリカ在住のジャズハーモニカ奏者

◎CLAUDE SAUBESTRE

Harmonica Virtuoso & Romantica, France HVR9605 自主製作のもの

フランスの友人からもらったもの

クロード・ソーベスターはフランスのハーモニカ奏者。各地のハーモニカ大会でよくお会いしたことがある。クラシックの小品をなかなかいい演奏をしている。

以前紹介したマリア・ヴォルフスパーガー、及び前号で紹介したマイク・タークとビート・ビーダスンのもの、いずれも大量に仕入し在庫しております。大量仕入れにより郵送料等込みで2500円に落として販売できることになりました。チラシをご参照のうえご注文ください。

特別顧問徳永延生氏がCD発売

当連盟特別顧問徳永延生氏が、スクリーン・ミュージックを集めた楽しいCDを製作し、発売しました。関西の豪華ミュージシャン5人をバックにして、映画音楽13曲を演奏しています。同封チラシをご覧ください。購入方法は次のとおりです。

価格	1枚3000円 送料込み
申し込み先	徳永音楽事務所 06 963 2536
申し込み方法	郵便振替口座 00930-1-57527 徳永延生 あて3000円を振り込んでください。

チラシ裏面掲載のレッスンCDもよろしく。

徳永 延生 CD発売記念コンサート 12/22 日

京都JEUGIA三条本店6階 間、JEUGIA三条本店 075-254-3700

特別顧問齋藤寿孝氏が「ハーモニカの本」を発行

当連盟特別顧問齋藤寿孝氏が「ハーモニカの本」という題名のハーモニカの本を発行しました。妹尾みえというテンホールのかたと共著で、初めから終わりまでハーモニカに関する記事が満載されています。

ハーモニカに興味ある人は、ぜひ読んでハーモニカの知識を向上させてください。

巨星落つ、昨年亡くなったハーモニカ奏者
ジェリー・ムラッド
エディ・マンソン
アル・フィオレ

昨年1996年5月にあのジェリー・ムラッドが、またこれに引き続き同じハーモニカ奏者のコード奏者だったアル・フィオレが10月25日又は26日に、それぞれお亡くなりになりました。ハーモニカ奏者のバス奏者であったドン・レスが94年にお亡くなりになっていますので、これでジェリー・ムラッドとハーモニカ奏者のオリジナルメンバーは全部お亡くなりになりました。

さらに、エディ・マンソンが7月12日に亡くなられております。エディ・マンソンは、映画「ティファニーで朝食を」の主題曲「ムーン・リバー」を吹いた人です。

これで「ティファニーで朝食を」の主演女優オードリー・ヘップバーン、その主題歌「ムーン・リバー」の作曲者ヘンリー・マンシーニ、その演奏者エディ・マンソンがお亡くなりになりました。また「ムーン・リバー」はジェリー・ムラッドとハーモニカ奏者のレパートリーの一つでもありました。

春秋社

シエイクスピアは隠れカトリック
だった？ ●Pミルワード／中山理・安田悦彦 著 300円

漁期的著述により今作が下に見られ隠されていた真の意味を明かす。

陰陽道物語 ●遠沢解 著 300円
神祕の法則と絡めた人々の姿を漢字で日本精神史の深層に迫る。三交田

生き方を愛える
イメージワーク ●Oケロイ・バーマン 著 300円
無意識の力を味方につけ、悔いなき人生を導くためのワークブック。天角

ハーモニカの本 ●齋藤寿孝・妹尾みえ 著 300円
萬福からブルースまで独創的に音楽世界を拓いた身近な奏者の知られざる魅力を開く。一宮聖田

〒530-0822 大阪市淀川区田辺2-18-5
電話 (06) 3055-9611 (定休日を除く)



ジェリー・ムラッド

左はトム・ストライカー、右は吉村則次
94年メンフィス、SPAHフェスティバルにて



アル・フィオレ（左はし）とともに
96年セントルイス
SPAHフェスティバルにて

$$\frac{3}{4} \quad \dot{3} \quad \underline{\dot{3} \dot{1} \dot{1} 6} \mid \underline{3 6 7 \dot{2} \dot{3}} \mid \underline{\dot{3} \dot{6} \dot{1} \dot{3} 7 \dot{2}} \mid \underline{6 \dot{1} 3 6 2 4} \mid$$

$$\frac{3}{4} \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad | 2 \cdot \quad \underline{3} \quad 2 \quad | 3 \quad 3 \quad 4 \quad | 5 \quad - \quad 0$$

上の楽譜はある曲集から頭の部分を2曲載せました。ここで拍子の部分を見ますと表示のしかたが異なります。拍子は、譜表において音部記号、調号に次いで置かれる重要なものですが、貴方はどちらが正しいとお思いでしょうか。その他関連したことを記してみますので、お考えになってみて下さい。

- 1 $\frac{4}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{2}{4}$ を $\frac{4}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{2}{4}$ と表示して、 $\frac{4}{4}$ を「4分の4拍子」等と言う方がいらっいらっしゃいます。「4分の4」は1ですから、1は何を表わすかとゆうことになってしまう。その他も同じく訳が分からなくなってしまうので、分数表示は止めるべきだと思いますが、如何でしょうか。
- 2 では、 $\frac{3}{4}$ を $\frac{3}{4}$ と表示したら、何と言ったらよいか、楽典にはっきりと「4分の3拍子」と記載されているものもありますが、本来は「3-4」が正しいのではないのでしょうか。私にはどうみても算数の分数には見えないのですが。
- 3 $\frac{6}{8}$ を6拍子と言って忙しく数えている方がいらっしゃいます。これは拍に相当する音符を実際のオタマジャクシで表示すとしたら当然、付点4分音符となり、拍数は2拍となります。つまり2拍子となります。
- 4 $\frac{4}{4}$ をハーモニカの譜面ではアルファベットの「C」と書く方がいますが、「C」ではありませんので、5線譜をみていただければ分かりますから、そのように直されたほうがよいと思います。
- 5 $\frac{6}{8}$ の曲で、ハーモニカ合奏を指揮するとき、相当練習を積まないと2拍子ではついてこれない。また指揮も譜面台を叩くように指揮する、叩きでやらないと合いくい。その点一流のオーケストラは、指揮者が棒を喉まで振り上げたらスタートしよう等と、オーケストラのほうで合わせてくれるから楽だ。あの宮川泰の指揮でもきっちり合わせることができるのだから、すばらしい。 Fine.

レターボックス—会員からのお便り

96-10-11

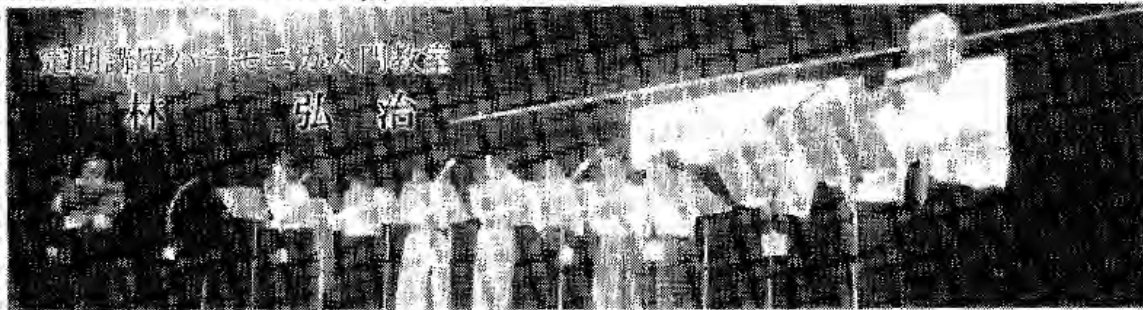
いつも連盟の運営等に格別のお世話になり、ありがたく感謝いたしております。私も連盟設立当初からメンバーにさせていただき、皆様とも交友をあたためてきましたが、昭和59年春、突然腎不全のため人工透析を余儀なくされ、爾来週に3回の治療を続ける身となり、すでに12年、1800回を超える闘病生活のあけくれです。ハーモニカにもすっかりごぶさたをして、近ごろはコンサートのご案内をいただいても治療の関係で思うようにならず、皆様にもすっかり失礼しております。

このたびは会報129号には、私の所有の資料を掲載いただき、思いもよらぬことで、恐縮いたしました。それで、今回は同封の2点を、また何かのご参考にとご送付いたします。

永久 欣示

(ご提供の資料は、順を追って掲載します。今回はそのうち1点を掲載させていただきました。お近くのかた(枚方市)、一度慰問にハーモニカを持ってお伺いされてはいかがでしょうか。昔のハーモニカのことを非常によくご存じで、また楽譜や録音もお持ちのようです。住所は128号掲載の会員名簿をご覧ください。)

友の会会員投稿～ハーモニカコンサートに参加して～



去る6月16日「平成8年度アンデパンダンハーモニカコンサート」が新緑の篠山の田園交響ホールで開催されました。その中で、当センターのハーモニカ教室から15名が参加し、日頃の練習の成果として「雨ふりお月」「夏の思い出」の2曲を演奏し、大好評を得ました。当日はアンサンブルとして12サークル、ソロ演奏として29名が出演、数々の名曲に耳を傾け本当に楽しい充実した1日でした。昨年度に引続いての参加でしたが、多彩な演奏に接し益々意欲がたかまり、来年に向かって練習を重ねたいと思います。

常設講座新設のお知らせ

ハーモニカ教室

10月より、常設講座ハーモニカ教室が新設されます。これに伴い定期講座ハーモニカ入門教室の日程が変更となりましたのでご注意ください。

●常設講座ハーモニカ教室

毎月第2・4土曜日 月2回開講

午前10時～正午

●定期講座ハーモニカ入門教室

※P11参照

ハーモニカは、幅広い年齢層にたいへん人気があり、しかも親しみやすい楽器です。好きなきときに手軽に吹奏できることや、メロディさえ知っていればすぐに吹けるといったことが親しみやすい理由でしょう。長い歴史を持ち、常に新鮮な魅力を持つハーモニカは、音楽学習にも重要な役割を果たしています。楽しみながら自然に音楽の力が身についていくハーモニカ教室へぜひ一度お越しください。

講師紹介

全日本ハーモニカ連盟理事
日本ハーモニカ芸術協会師範



西田 幸司氏

(尼崎市) アルカイックカルチャースクール
友の会ニュース「文化」90号より

テレビに現れたハーモニカ

96/9/14 BS2 映画「ブルース・ブラザーズ」

1980年の映画で、テン・ホールが多く演奏されていました。画面上でも演奏されていました。出演者は、ジョン・リー・フッカー、ウォルター・ホートン等テン・ホールの名手、歌手のキャブ・キャロウェイ等が出ており、テン・ホール愛好者には、たまらない映画ではなかったかと思います。

ビデオも出ておりますので、見損なったかたはどうぞ。

96/9/26 BS2 モントルー・ジャズ・フェスティバル

トーツ・シールマンスが、クインシー・ジョーンズ楽団をバックに、Brown Balladを吹いていました。昨年(96年)も、11月大阪ブルーノートで演奏があり、お会いしました。ますますお元気の様子でした。

96/9/28 Ch.4 毎日テレビ「ドキ!三枝きよし」

東京の町田明夫氏が出演し、まずクイズで、シルバー・コンチェルトのハーモニカ(70万円)と金色のミニ・ハーモニカ(1500円)を見せて、どちらが高いかを当てさせ、その後自作のカラオケを使って、「草競馬」により色々なハーモニカのデモをされました。



貴方の演奏したい曲を、個人レッスンで
平和堂楽器・ハーモニカ教室

火曜日、30分レッスンでメキメキ上達してください

高槻市川西町1丁目29-35 Tel. 0726-84-1138

講師 ハーモニカ振興会認定指導員が当たります

新入会員紹介

四国の山本さん（四国入会第1号）も入会！

前号発行以後、次のとおり3名の新入会者がありました。

これで、会員数はご逝去による減を差し引き190となりました。

（入会日順）

岡谷 秀喜 584富田林市高辺台3-4-61-204 0721 28-5071

（前号折り込みで通知済み）

山本 広幸 781 13高知県高岡郡越智町越智丙261-1 0889 26 2625

第1回西日本ハーモニカコンテスト、複音の部優勝者です。

服部 健 572寝屋川市石津東町19-14 0720 29-1289

住所変更

理事 岡村 貞彦 666-01 川西市湯山台2-84-6 0727 92-3686

お悔やみ申し上げます。

理事 長浜 忠夫さん 神戸市灘区 96/7/10没 76才

以上は前号折り込みで通知済み

会員の氏名、住所、電話番号等、会員名簿記載事項の誤り、変更等の場合は、すぐ会計部長後藤貞男（住所は表紙裏に記載）に通知をお願いします。

以上



96/6/16日本ハーモニカ芸術協会バス旅行
兵庫県塩田温泉「輝の家」の部屋より 今井康郎 画

16年前の連盟総会

昭和55年5月24日 No. 5 連盟ニュースより

関西ハーモニカ連盟総会盛会裡に終わる

関西ハーモニカ連盟総会は、昭和55年4月20日午後2時から、大阪市東区森ノ宮東之町大阪市立労働会館において行われ、会員52名（3月現在）中22名と新入会者5名も加わって27名が出席し、この種の団体の総会としては出席の良いものであった。

総会は井上理事長あいさつのあと、54年度事業報告（平口理事）のあと、54年度決算報告を板村会計担当理事が損益計算書により詳細に説明し、異議なく承認された。

次いで55年度予算案については総額12万円（55年度合同演奏会経費を除く）が承認可決された。つづいて鈴木副理事長から55年度行事計画の説明があり、会員の中からは、さらに建設的な意見も出て、連盟の今後の発展にいっそうの明るさが見られた。なお、前述の55年度予算実行のためには、普通会员の年会費1,000円を1口につき1千円と改めることに規約を改正することにした。これにより、2口以上の会員を期待し経費の充実を図りたい。

以上を持って予定議案の審議は終わり、最後に白鳥副理事長から2口以上会員の協力を要請する言葉を含めた閉会の辞で55年度総会は終わった。

（提供 永久 欣示 氏）

以上

クイズ

□にはなんという字が入るでしょうか。

$$\boxed{\text{ハ}} - \boxed{\text{毛}} = \boxed{?}$$

出題 新井 繚吉

会報次号予告

会報97/4月号、発行日 97/3/17（月）

原稿締め切り日 97/2/15（土）

総会結果報告（規約改正、役員変更、年間計画等）

とっておきの話（特別顧問森本恵夫氏）

会員の概況（男女別人数、年齢別分布、地域別分布、使用楽器別分布等）

AERA

10.21
No.43 定価350円
アエラ



ミュージシャン スティービー・ワンダー

「アエラ」AERA 96/10/21号表紙

スティービー・ワンダー

持っているハーモニカは、カバーにWONDER HARP 16とあり、
どこかの特別製作、あるいはカバーだけ特別製作のもの、かと思われる。
通常は、テレビで見ると、スーパー64を使っている。

編 集 後 記

編集局長 吉村 則次

私が編集局長になって1年経ちました。ハーモニカの拡大発展に役に立つようにという点をいつも念頭に置いて、編集をしてまいりました。お約束どおりの期日に、お約束の4回発行することができました。今年も、特に私の健康上の問題でも起きない限り、お約束どおりの期日に発行できる見通しが立ちました。

毎回、皆さんから提出されるありがたい原稿や写真、切り抜きなども増加気味で、むしろ費用の方が抑えになって、一部積み残しまで出ています。

おおかたの方には満足いただき、ハーモニカに関するニュースの伝達、ハーモニカ演奏技能の向上及び会員相互の懇親に役に立っているように思います。

当然のことながら、会員各人趣味趣向が異なりますので、すべての記事がすべての会員に満足の行くという訳には行きません。

したがって新聞や雑誌を読むのと同じように、目次を見て興味あるものから読んでいただければ結構と思います。

特に会員は、大部分（多分90%ぐらい）の複音ハーモニカ愛好者と一部（多分10%ぐらい）のクロマチックハーモニカ愛好者から成り立っております。複音ハーモニカとクロマチックハーモニカは、ひとからげにして、我々はハーモニカと呼んではいますが、全く異なる楽器と見た方が正しいようで、それぞれ演奏する音楽の種類、使う楽譜の記載方法、演奏方法、演奏者の興味の対象、考え方等が異なります。

この会報の編集に関しても、私は、常に複音とクロマチックの点を意識しており、どちらにも偏らないようにしておりますが、編集局長がクロマチックですから、ついそちらの方のニュースや意見が入りやすくなり、また知識も豊富なので、したがって自然にクロマチックに偏っているものと思います。皆さんもそれをお感じになっていることと存じます。

これは一面やむを得ないことで、すべての雑誌、新聞についても言えることで、その発行者ないしは編集局長の主義主張ないしは趣旨が記事に自然に現れるわけです。

これを避けるには、編集局長がときどき交替するしかないと思います。

役員の任期は2年ですので、あと1年、4回会報を発行して、その後のことを考えたいと思います。

今年もよろしく会報を読んでください。またニュースの提出、ご意見の発表、ご協力をお願い申し上げます。

以 上





H	R	O	I	A
A	M	N	C	

関西ハ一モニカ連盟

関西ハーモニカ連盟会報97/1月号、追加
とっておきの話 [3]

関西ハーモニカ連盟 特別顧問
森本 恵夫

ベースなんかやめちまえ！！

♪♪丸い卵も切りようで四角

ものも言いようで 角が立つ♪♪

こんな都鄙逸(どどいつ)がありました。

人生いろいろ、言い方いろいろ。――

今は昔、ハーモニカを吹く人は、ベースが入るようになると、鬼の首でも取ったように喜んで、やたらにベースを入れて得意になって吹いたものです。ベースが入るか入らないかで上手下手が決められた時代があったのです。

しかしハーモニカ音楽が進歩し、その音楽性が論議されるようになると、ベースを入れた時に入る和音が気になり出し、吸ったときに入れたベースで出て来るレファラシの和音が耳障りなので、「シ」の音を入れるベースには気を付けるように言う人が出て来ました。

また、マイナーの曲なのに、メジャーのハーモニカで平気でベースを入れたり、メジャーの曲なのにマイナー・ハーモニカでベースを入れるように編曲してあったりするのを見て、だからハーモニカはおもちゃなんだと意気まく人もいました。

その一方、いやそれは、ベースを和音だと思っからいけないので、あれは太鼓やシンバル同様リズムだと思って、とやかく言う必要は無いのだと、知ったかぶりをする人も出てきました。

しかし理屈はともかく、「シ」のベースは気持ち悪いし、マイナーの曲をメジャーでベースを入れたり、メジャーの曲をマイナーでベースを入れられたのでは、音楽もへったくれもあつたものではありません。

いや、待って下さい。あの先生が吹くと、マイナーの曲をメジャーで吹いてもちっともおかしくない。さすがあの先生はうまい！！と感心する方もいます。いろいろな言い方があるものですが、何をか言わんや。その方は和音というものがわからないだけの話しです。

―― 〇 ―― 〇 ―― 〇 ――

私がCDを入れたとき、レコーディング・ディレクターは、出来るだけ素朴に、シンプルに叙情性を出してほしい、という要求でした。

私が一生懸命ベースを入れて吹いたら、そのザッザッという雑音を止めてほしいと叱られました。音楽をやる人には、ベースは雑音に聞こえるらしいですね。

でも無伴奏の複音独奏でベースを入れなければ曲がまとまりません。

やむをやらずベースは最小限にして、三度音、六度音を多用、あとはメロディーを美しく歌うように心がけ、あの一連の「わが心のハーモニカ」CDが出来上がったのです。

大小ベースはやめちまえ！！

今は昔、大小ベースなんかありませんでした。

3/4 3 - - | 5 6 | 8 - - | 6 - - |
 ○△△ | ○△△ | ○△△ | ○△△ |
 4/4 5 3 5 | 6 5 - | 5 1 2 3 2 1 | 2 - - - |
 ○△○△ | ○△○△ | ○△○△ | ○△△△ |

ところが後の人が五線譜を見て、ベースの休みのところにも伴奏音があるのに気づき、ここに大ベースを入れました。

ベース奏法が進歩したように見えます。しかし、よくご覧ください。大ベースは、1音でブン、小ベースは和音でチャッチャッで音の構造が違います。

これを単に大小ベースでやってしまうと、ブン、チャッ、チャッ、ザン、チャッ、チャッになってしまうと、頭の1音のブンが表現出来ません。

△△△ はだめ

かえって耳障りになってしまうので、むしろ、1拍目を休んで、ベースは2、3拍だけとした方がすっきりと、きき易くなります。

○△△

つまり昔にかえった方が良いのです。

どうしても1拍目がほしいのであれば、7穴音（吹き音ではオクターブ音、吸い音では6度音）を入れるのもよいでしょう。

3/4 3 - - | 5 6 | 6 - - | 6 - - |
 3△△ | 5△△ | 2△△ | 7△△ |

いずれにせよ、重苦しい耳障りなベースは避けて、必要なところにだけ、軽やかなベースを入れるよう工夫してみてください。

【ご意見、反論など編集局までお寄せください。】

原稿締め切り後、当連盟主催のコンサートに関し、次のお便りが届きました。

宇治ハーモニカコンサートを聴いて

京都市 村上 宣明

宇治市でのハーモニカコンサートは、ことのほかすばらしかった。

平等院にある飛天の中の一人が、ハーモニカらしき楽器を吹いている。そして、いま現代のハーモニカの世界的マエストロたちが、すてきな演奏をしている。

私は、久しぶりに本物のハーモニカの音にふれて、とてもいい気分にはたって行った。

小学一年のとき、大勢の前でハーモニカを独奏したこと、うれしい時さみしい時にハーモニカを手にしたことなどを思い出していた。

中央大では「ハーモニカソサエティ」に入った。メンバーの中に、ひときわいい音色を出している同級生がいるのに気がついた。

音量豊かで、目のさめるような音である。それが、いまステージにたっている齋藤壽孝さんだった。彼は、当時の学生チャンピオンであり、いろいろな面で私たちのレベルアップを図ってくれたものだった。

ある時は、先輩である宮田東峰さんのお宅へおじゃまして、教えていただいたこともあった。

コンサートを聴きながら、次からつぎへと思いついてきた。さながら、飛天の飛び交う極楽にいるような時を過ごすことができた。

私たち聴衆に、愛すべきハーモニカの魅力を喚起してくれたコンサートの関係者の方々に感謝いたします。

京都市東山区蒔田町554 村上 宣明

日本ハーモニカ芸術協会（佐秀会）関西支部から、同協会主催の「ハーモニカコンサート」は、6月21日（土）雇用促進事業団堺勤労者総合福祉センター、サンスクエア堺（JR阪和線堺市すぐ、堺市田出井町2-1、電話0722 22-3561）にて開催することに決まった旨通知ありました。本誌ハーモニカカレンダーに記載のとおり6月29日（日）を予定していたが都合により変更になったとのこと。詳細は同協会から協会メンバーに通知がある予定。

研修会のお知らせ（32ページ）ご参照

ホーナーの合奏用簡易コードハーモニカ、Vinetaは、次の6種類のキーのものが最近発売されたそうです。研修会当日モリダイラ楽器に展示販売してもらおうこととしました。また、そのチラシを取り寄せましたので、同封します。

メジャー F/C/G D/A/E A^b/E^b/B^b
マイナー Dm/Am/Em Fm/Cm/Gm A^bm/E^bm/B^bm
それぞれに7thコードがついています。

53ページご参照、当連盟特別顧問 齋藤壽孝氏の著書「ハーモニカの本」のチラシも取り寄せましたので、同封します。

原稿締め切り後、次のとおり4名の新入会者がありました。 96-12-8現在

中田 幸美	570	守口市西郷通3-12-7	06 996-3504
辻本 昌彦	567	茨木市大同町4-9	0726 35-3458
宮本 一男	657	神戸市灘区六甲町1-2-5	078 821-0609
村上 宣明	605	京都市東山区蒔田町554	075 561-8018